

平成２５年度 セーフティネット支援対策等事業費補助金
社会福祉推進事業

「福祉における災害時広域支援システムの構築・運用に関わる
研修の開発」

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード

平成２６（２０１４）年３月

目次

1. 目的	1
2. 実施期間	2
3. 実施体制	2
4. 実施手順	4
5. 実施概要	7
5.1. 検討委員会	
5.2. 研修プログラムの開発	
5.3. 報告書の作成と普及	
6. まとめ ～課題と展望～	73

参考資料

「第1回検討委員会」 議事録

「第2回検討委員会」 議事録

「サンダーバード災害福祉広域支援研修Ⅰ【山口】アンケート」調査票

「サンダーバード災害福祉広域支援研修Ⅰ【高知】アンケート」調査票

「サンダーバード災害福祉広域支援研修Ⅰ【静岡】アンケート」調査票

「第1回モデル研修 山口県 事前レポート&最終レポート」

「第1回モデル研修 高知県 事前レポート&最終レポート」

「第1回モデル研修 静岡県 事前レポート&最終レポート」

1. 目的

大災害発生時には、少数の介護者で多くの要援護者を長期にわたって支えなければならない状況が生まれる。この状況を打開するためには、広域的な支援が不可欠である。しかし、ライフライン、自衛隊、警察、医療等の広域的な支援が災害発生直後に自動的に動き出すのに対し、福祉の広域支援は未だ十分な体制が整っていない。

東日本大震災においても、厚生労働省による広域支援の呼びかけがなされたが、十分な成果をあげるには至らなかった。呼びかけに応じた7,719人の内、実際に支援を行ったのは、1,424人（岩手県302人、宮城県966人、福島県156人/2011年7月19日時点）であった。

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーボードでは、設立当初より、福祉における災害時広域支援システムの検討を行い、現在もその運用を行いながら検証を続けている。

平成24年度社会福祉推進事業として実施した「災害時要援護者の広域支援体制の検討と基盤づくり」では、全国を7地域に分け、各地域における災害時要援護者の広域支援の課題抽出を行った。その結果、東日本大震災において、外部支援者の受け入れが円滑になされなかった最大の原因は、広域支援の目的や理念が十分理解されていなかったことにあることが分かった。全体調整を行うことができるコーディネーターが不在であったことも、支援の障がいになったとの指摘もあった。

広域支援システムを機能させるためには、広域支援の目的・理念・手法等を広く伝える啓発・研修と、コーディネーター養成のための専門講座が不可欠だということである。

現在、厚生労働省の働きかけにより、福祉における災害時の広域支援体制の構築が始まりつつある。各県毎に、コーディネーター候補団体を定め、災害時要援護者支援に関わる団体の連携プラットフォームづくりが進められている。しかし現状では、それを支える研修システムがない。

本事業は、広域支援の目的・理念・手法等を広く伝える啓発・研修の開発及び検証を行うものである。本事業により、連携プラットフォームに集まる団体及び個人に、広域支援を含む災害時要援護者支援全般についての共通の知識と認識を育むシステムを構築することは、広域支援体制を機能させる上で不可欠である。更には、広域支援以外の災害時要援護者支援体制の推進にも繋がる。

東日本大震災では、障がい分野の被害が著しかったことを踏まえ、本事業は、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉等の種別を超えたしくみづくりを前提に実施した。また、重複のない、効率的な支援のために、これまでの職種ごとの縦割り支援を脱し、職種を超えた連携を前提とした支援を目指した。

本事業の成果を元に、次年度以降、全国で研修を実施し、災害時要援護者支援のための共通認識の確立に努めたい。

2. 実施期間

事業実施期間は以下の通りである。

平成 25 年 7 月 30 日 から 平成 26 年 3 月 31 日

3. 実施体制 ※敬称略順不同

本事業は、以下の体制で実施した。

【検討委員会】

委員長

小山 剛 (高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／新潟県中越地震被災)

委員

黒田 裕子 (阪神高齢者・障がい者支援ネットワーク理事長／高齢者福祉／
阪神・淡路大地震被災地)

有賀 絵理 (茨城大学地域総合研究所客員研究員・非常勤講師／障がい者福祉)

野田 毅 (社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／
東北地方太平洋沖地震被災地)

中田 年哉 (社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／
東北地方太平洋沖地震被災地)

平塚 幹夫 (社会福祉法人光の子児童福祉会理事長／児童福祉／
東北地方太平洋沖地震被災地)

【開発会議】

小山 剛 (高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／新潟県中越地震被災)

野田 毅 (社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／
東北地方太平洋沖地震被災地 宮城県)

中田 年哉 (社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／
東北地方太平洋沖地震被災地 宮城県)

斉藤 隆 (特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会事務局事務局長・
認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダー
バード企画室)

安井 あゆみ (特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員・
認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダー

バード企画室室長)

【モデル研修 現地調整協力】

静岡県

久保田 緑 (認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード静岡支部・社会福祉法人湖成会／高齢者福祉)

高知県

上村 敏彦 (認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード高知支部・社会福祉ふるさと自然村／高齢者福祉)

山口県

部坂 佳生 (認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード山口支部・社会福祉法人青藍会／高齢者福祉・児童福祉)

【全体調整】

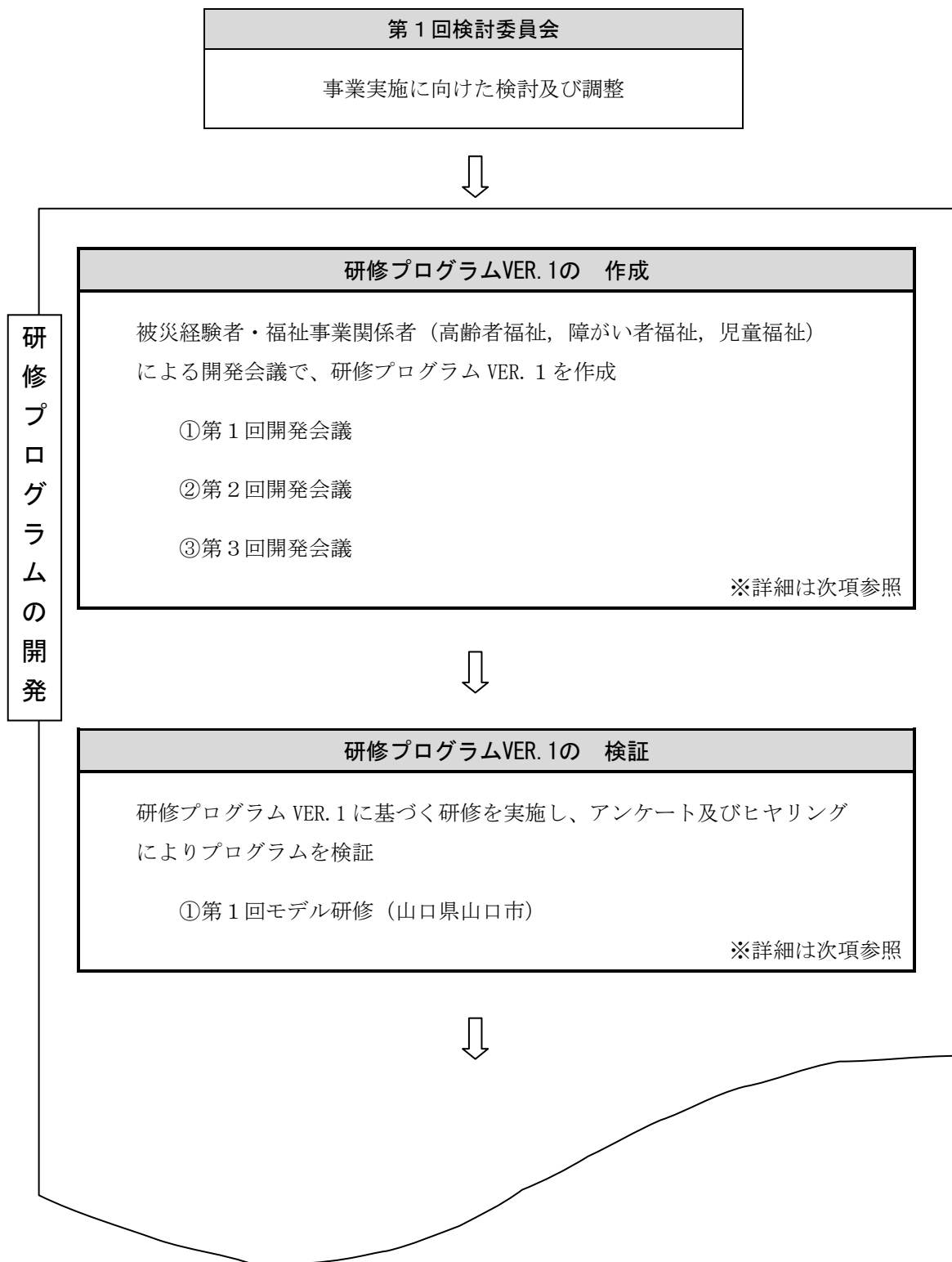
安井 あゆみ (認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室室長)

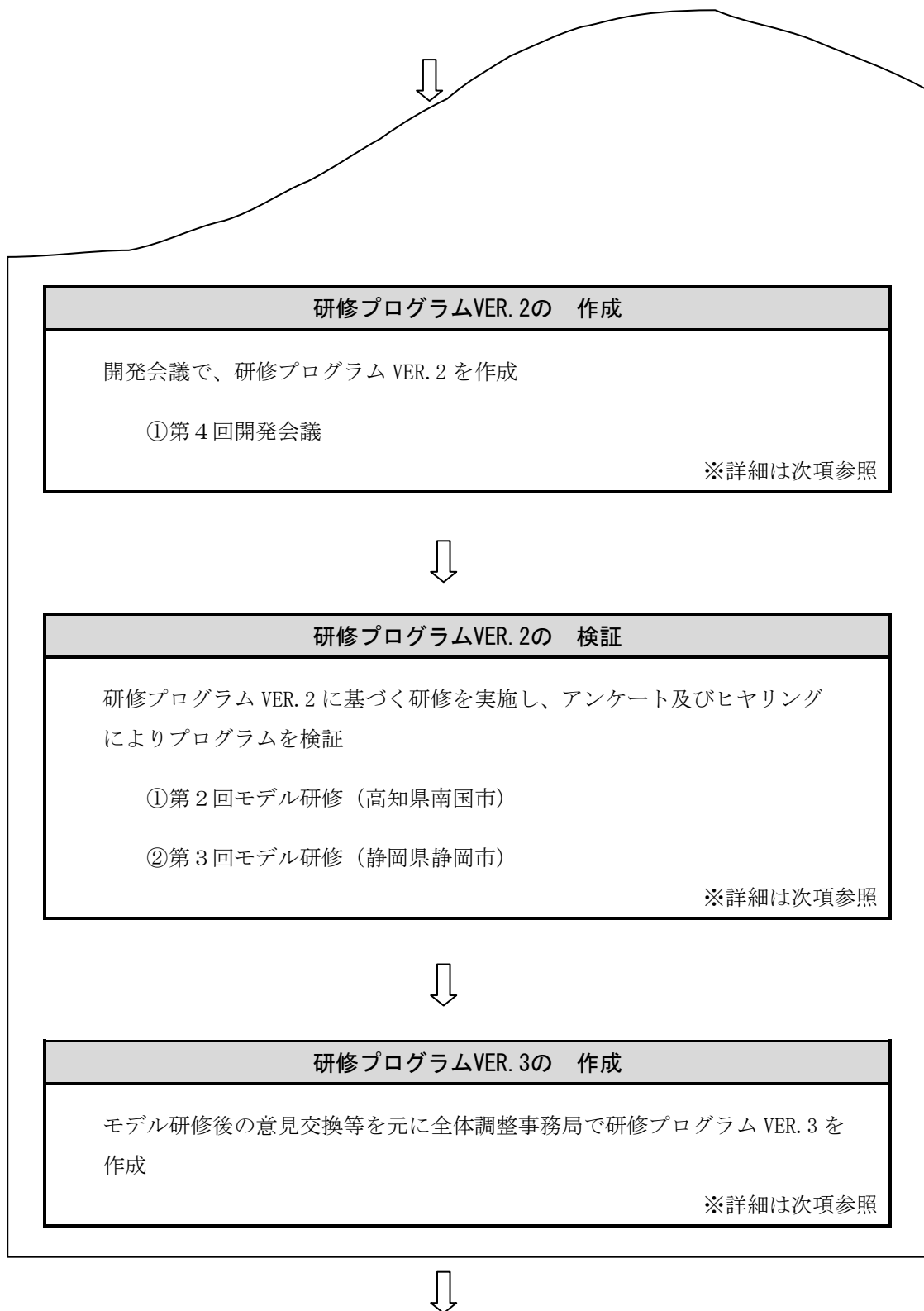
植松 伸一 (認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室)

高橋 昌裕 (認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室)

4. 実施手順

本事業は、以下の手順で実施した。







第2回検討委員会
研修プログラム VER.3 の検討 事業成果の評価



報告書の作成と普及
事業の内容及び成果をまとめた報告書を作成 研修案内（研修テキスト 10 冊等）を全国の都道府県（47 都道府県）防災 担当課に送付 ①発送リストの作成 ②研修案内の発送 ※詳細は次項参照

5. 実施概要

※敬称略順不同

実施概要について、以下に記す。

5. 1. 検討委員会

被災経験者、福祉事業関係者（高齢者福祉，障がい者福祉，児童福祉等）による検討委員会を設置し、事業実施に向けた検討及び調整（1回）と実施後の評価（1回）を行った。

目的

事業開始時と終了時に、第三者的な視点で、事業内容，手法，結果等について確認と評価を行う機会を設けることにより、本事業を偏りのないものとする。

委員（順不同敬称略）

委員長

小山 剛 （高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／新潟県中越地震被災）

委員

黒田 裕子 （阪神高齢者・障がい者支援ネットワーク理事長／高齢者福祉／
阪神・淡路大地震被災地）

有賀 絵理 （茨城大学地域総合研究所客員研究員・非常勤講師／障がい者福祉）

野田 毅 （社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／
東北地方太平洋沖地震被災地）

中田 年哉 （社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／
東北地方太平洋沖地震被災地）

平塚 幹夫 （社会福祉法人光の子児童福祉会理事長／児童福祉／
東北地方太平洋沖地震被災地）

実施内容

①第1回検討委員会

実施日

平成 25 年 9 月 12 日

実施場所

福祉プラザさくら川（東京都港区）

出席者

〈検討委員〉

- 小山 剛 (高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地)
- 有賀 絵理 (茨城大学地域総合研究所客員研究員・非常勤講師／障がい者福祉)
- 野田 毅 (社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地)
- 中田 年哉 (社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地)

〈オブザーバー〉

- 片桐 昌二 (厚生労働省社会・援護局福祉基盤課課長補佐)

〈調整事務局〉

- 安井 あゆみ (認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室室長)
- 斉藤 隆 (認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室)
- 植松 伸一 (認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室)
- 高橋 昌裕 (認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室)

次第

- 議題 1 平成 25 年度社会福祉推進事業
「福祉における災害時広域支援システムの構築・運用に関わる研修の開発」
事業内容及び実施手法について
- 議題 2 その他

資料

- 資料① 事業概要
- 資料② 研修企画（案）

検討結果

参考資料参照 「第1回検討委員会 議事録」



第1回検討委員会

②第2回検討委員会

実施日

平成26年3月18日

実施場所

福祉プラザさくら川（東京都港区）

出席者

〈検討委員〉

- | | |
|-------|--|
| 小山 剛 | （高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地） |
| 有賀 絵理 | （茨城大学地域総合研究所客員研究員・非常勤講師／障がい者福祉） |
| 野田 毅 | （社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地） |
| 中田 年哉 | （社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地） |

〈調整事務局〉

安井 あゆみ（認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・
サンダーバード企画室室長）

高橋 昌裕（認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・
サンダーバード企画室）

次第

議題 1 平成 25 年度社会福祉推進事業

「福祉における災害時広域支援システムの構築・運用に関わる研修の
開発」

実施後の評価について

議題 2 その他

資料

資料① 事業報告

資料② テキスト「サンダーバード災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」

資料③ モデル研修 アンケート 集計結果

山口県 モデル研修

高知県 モデル研修

静岡県 モデル研修

資料④ モデル研修 事前レポートと最終レポートの比較

山口県 モデル研修

高知県 モデル研修

静岡県 モデル研修

検討結果

参考資料参照 「第 2 回検討委員会 議事録」

第2回検討委員会



5. 2. 研修プログラムの開発

開発会議での検討とモデル研修での検証により、研修プログラムを開発した。

以下に概要を記す。

目的

災害福祉広域支援ネットワークが、有事に確実に機能する広域システムとなるよう、ネットワークを構成する各都道府県の連携プラットフォームの共通認識づくりを目的とした研修プログラムの開発を行った。研修対象は、各都道府県の連携プラットフォーム。研修は、基礎編から応用編まで、各論から総論まで、段階的、複合的な構成とし、今回は、最も基本となる研修の開発を行った。基礎研修は、災害をイメージする力と、明日災害が起こった場合にも役立つ基礎理念の習得を達成目標とする。災害福祉広域支援ネットワークを機能するしくみとするために、最低限必要な内容である。

47 都道府県で複数回の研修を行うためには、複数の講師で実施可能なプログラムにする必要がある。この点も視野において、プログラムづくりを行った。

また、東日本大震災では、障がい分野の被害が著しかったことを踏まえ、本研修は、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉等の種別を超えたしくみづくりを前提に実施した。また、重複のない、効率的な支援のために、介護、看護等の職種を超えた連携を前提とした。

実施手順

(1) 研修プログラム VER.1 の作成

(第1回開発会議、第2回開発会議、第3回開発会議の実施)

研修プログラムの開発は、被災経験者・福祉事業関係者（高齢者福祉，障がい者福祉，児童福祉等）等による研修プログラムを開発するための委員会（開発会議）が中心となって行った。

まず、3回の開発会議（第1回開発会議，第2回開発会議，第3回開発会議）とネット上でのやりとりで、研修プログラム VER.1 を作成した。検討は、平成24年度社会福祉推進事業として実施した「災害時要援護者の広域支援体制の検討と基盤づくり」の成果等を踏まえて行った。¹

開発会議のメンバーは以下の通り。

【開発会議】

小山 剛	(高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／新潟県中越地震被災)
野田 毅	(社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／ 東北地方太平洋沖地震被災地 宮城県)
中田 年哉	(社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／ 東北地方太平洋沖地震被災地 宮城県)
斉藤 隆	(特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会事務局事務局長・ 認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サン ダーバード企画室)
安井 あゆみ	(特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員・ 認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サン ダーバード企画室室長)

(2) 研修プログラム VER.1 の検証 (第1回モデル研修の実施)

研修プログラム VER.1 に基づく研修（第1回モデル研修）を実施し、プログラムの検証を行った。受講者には、本研修が開発のためのモデル研修であることを明確に伝え、アンケート及び口頭での意見を求めた。また、研修による意識の変化をはかるために、「災害時要援護者支援の基本姿勢」というタイトルで、研修の事前・事後にレポートの提出をお願いした。

¹ 「災害時要援護者の広域支援体制の検討と基盤づくり」では、全国を7地域に分け、地域ごとに、福祉における災害時の広域支援の課題を抽出した。高齢，障がい，児童等の連携という視点にたった議論を行った。

モデル研修は以下の手順で実施した。

①モデル研修実施都道府県の選定

以下の手順でモデル研修実施都道府県の選定を行った。

●モデル研修実施都道府県（案）の検討

災害福祉広域支援ネットワークのプラットフォームづくりは、まだ検討が始まったという段階で、モデル研修の対象となるのは難しい状況にある。そこで、開発会議で提案を作成し、検討委員会で議論の上、モデル研修実施都道府県（案）を定めることとした。

●モデル研修実施都道府県の決定

モデル研修実施都道府県（案）に基づき、依頼をだし、モデル研修実施都道府県を決定した。

②会場の調整

現地調整協力者と相談し、会場を調整した。

③参加者の調整

現地調整協力者と連携し、以下の手順で、参加者調整を行った。

●参加者募集

●参加者案内（受講票の送付，事前レポートのお願い）

●事前レポートの回収

④研修担当者の調整

開発会議で研修担当者（講師等）の調整を行った。

⑤研修備品（テキスト等）の準備

全体調整事務局で研修備品（テキスト等）の準備を行った。

⑥モデル研修の実施

モデル研修を実施した。本研修は研修プログラム開発の一環であることから、実施に当たっては受講者には、本研修の位置づけを繰り返し伝え、アンケート及び口頭での意見と、最終レポートの提出を求めた。また、映像、音声、写真による記録を行った。

⑦アンケートの集計分析

全体調整事務局で集計したアンケート結果を、開発会議で分析し、研修プログラムに反映した。

⑧事前・最終レポートの分析

全体調整事務局で取りまとめた事前・最終レポートについて、開発会議で分析し、研修プログラムに反映した。

(3) 研修プログラム VER. 2 の作成 (第4回開発会議の実施)

第1回モデル研修での研修プログラム VER. 1 の検証結果に基づき、研修プログラム VER. 2 を作成した。検討は、1 回の開発会議とネット上でのやりとりで行った。

(4) 研修プログラム VER. 2 の検証 (第2回モデル研修, 第3回モデル研修の実施)

研修プログラム VER. 2 に基づく研修(モデル研修②, モデル研修③)を実施し、プログラムの検証を行った。受講者には、本研修が開発のためのモデル研修であることを明確に伝え、アンケート及び口頭での意見を求めた。また、研修による意識の変化をはかるために、「災害時要援護者支援の基本姿勢」というタイトルで、研修の事前・事後にレポートの提出をお願いした。

モデル研修の実施手順は、第1回モデル研修と同様である。

(5) 研修プログラム VER. 3 の作成

モデル研修(第2回モデル研修, 第3回モデル研修)での研修プログラム VER. 2 の検証結果に基づき、研修プログラム VER. 3 を作成した。検討は、各モデル研修後の意見交換とネット上でのやりとりで行った。

実施内容(実施結果)

(1) 研修プログラム VER. 1 の作成

(第1回開発会議, 第2回開発会議, 第3回開発会議の実施)

研修プログラム VER. 1 の作成のために、以下のように開発会議を実施した。

a. 第1回開発会議

日時 : 平成 25 年 8 月 23 日

場所 : 福祉プラザさくら川(東京都港区)

内容：第1回検討委員会で検討するため、以下について、意見交換を行った。

●モデル研修実施都道府県（案）

●事業概要

平成25年度社会福祉推進事業「福祉における災害時広域支援システムの構築・運用に関わる研修の開発」に関する以下について

- 事業内容（案）
- 実施手法（案）
- 実施体制（案）
- 実施スケジュール（案） 等

●研修企画（案）

- 研修名称（案）
- 研修の背景と目的（案）
- 研修対象（案）
- 研修対象・人数（案）
- 研修構成（案） ※応用編等を含めた研修の全体構成
- 研修日程・プログラム（案）

参加者：小山 剛（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地）

野田 毅（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地）

中田 年哉（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地）

斉藤 隆（特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会事務局事務局長・認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室）

安井 あゆみ（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員・認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室室長）

検討結果

検討内容について、以下のような議論を行った。

●モデル研修実施都道府県（案）

災害福祉広域支援ネットワークのプラットフォームづくりは、まだ検討が始まったという段階で、モデル研修の対象となるのは難しい状況にある。そこで、現地調整協力が可能な社会福祉法人のある都道府県の中から、モデル研修実施都道府県（案）を選定した。また、大災害の予測がある都道府県、つまり災害への意識が高いとされている都道府県と、災害の少なく災害への意識が低いとされている都道府県の両方を含む形で選定を行った。

検討の末、以下をモデル研修実施都道府県（案）とした。

【モデル研修実施都道府県と現地調整協力者】

第1回モデル研修

山口県

部坂 佳生 （認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード山口支部・社会福祉法人青藍会／高齢者福祉・児童福祉）

第2回モデル研修

高知県

上村 敏彦 （認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード高知支部・社会福祉ふるさと自然村／高齢者福祉）

第3回モデル研修

静岡県

久保田 緑 （認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード静岡支部・社会福祉法人湖成会／高齢者福祉）

●事業概要

○事業内容（案）

災害福祉広域支援ネットワークが、有事に確実に機能する広域システムとなるよう、ネットワークを構成する各都道府県の連携プラットフォームの共通認識づくりを目的とした研修プログラムの開発を行う。

○実施手法（案）

開発会議による検討とそれを検証するモデル研修により、研修開発を行う。

事業開始前と事業終了後に検討委員会を行い、客観的な評価を行う。

○実施体制（案）

開発会議のメンバーは、被災経験者・福祉事業関係者（高齢者福祉，障がい者福祉，児童福祉等）を含める。

モデル研修の実施場所は、災害に対する意識の高い都道府県（大災害の予測がある地域）と災害に対する意識の低い都道府県（災害の少ない地域）の両方で実施する。

○実施スケジュール（案）

研修プログラム VER. 1 の作成 平成 25 年 8 月～11 月

研修プログラム VER. 1 の検証

平成 25 年 11 月～平成 26 年 1 月

研修プログラム VER. 2 の作成 平成 26 年 2 月

※ 上記は計画当初の予定であり、実際とは異なる。

●研修企画（案）

○研修名称（案）

災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】

○研修の背景と目的（案）※ 目的の部分のみ抜粋

本研修の目的は、連携プラットフォームに集まる団体及び個人に、広域支援を含む災害時要援護者支援全般についての共通の知識と認識を育むことにより、より良い形で広域連携を機能させることである。更には災害時要援護者に迅

速かつ効果的な支援が行える体制整備を推進することである。

東日本大震災では、障がい分野の被害が著しかったことを踏まえ、本研修は、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉等の種別を超えたしくみづくりを前提に実施する。また、重複のない、効率的な支援のために、介護、看護等の職種を超えた連携を前提とする。

○研修対象（案）

災害時要援護者支援の広域支援を目的とする県単位のプラットフォームを構成する団体及び個人。

以下のような団体が考えられる。

- ・ 高齢者福祉関係団体
- ・ 障がい者福祉関係団体
- ・ 児童福祉関係団体
- ・ その他の福祉関係団体
- ・ 医療関係団体
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 行政（都道府県，区市町村） 等

○研修対象・人数（案）

定員 42 名程度（グループワーク＝6 名×7 グループ）

○研修構成（案） ※応用編等を含めた研修の全体構成

災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】

災害福祉広域支援研修Ⅰ【フォローアップ編】

災害福祉広域支援研修【応用編Ⅰ 訓練計画手法】

災害福祉広域支援研修【応用編Ⅱ 福祉避難所運営手法】

災害福祉広域支援研修

【応用編Ⅲ サポートセンター運営手法】

災害福祉広域支援研修【応用編Ⅳ BCP策定手法】

災害福祉広域支援研修【応用編Ⅴ 地域連携手法】

災害福祉広域支援研修

【応用編Ⅵ 地域包括ケアのまちづくり】

講師養成講座

○研修日程・プログラム（案）

最低限の情報を網羅するために、日程は2日間とする。

プログラム（案）は次表参照

【1 日目】

時 間	内 容	
8:30	受付開始	
9:00～9:10 (10 分)	オリエンテーション	趣旨説明 日程説明 その他
9:10～10:40 (90 分)	災害の基礎と実際 【講義】	《目標》 災害をイメージする力を養う 《内容》 ①災害の基礎 ・ 災害の定義と種類 ・ 防災の基礎 ・ 災害対応の基本 等 ②災害の実際 ・ 災害の事例 ・ 災 害 の 経 験 （ 映 像 を 交 え て ） 等
10:40～10:50 (10 分)	休憩	
10:50～12:20 (90 分)	災害の基礎と実際 【ワークショップ】	《目標》 災害をイメージする力を養う 《内容》 災害体験についてのヒヤリング素材 を元にしたエスノグラフィ 等
12:20～13:20 (60 分)	非常食体験 (昼食・休憩)	
13:20～14:50 (90 分)	災害時要援護者支援の 基礎と実際 【講義 1】	《目標》 災害時要援護者支援の基礎知識と基 本姿勢を習得する 《内容》 ①災害時要援護者支援の基礎 ・ 災害時要援護者とは ・ 災害時要援護者支援の概要 B C P 避難支援と福祉避難所 地域連携と広域支援 サポート拠点

		地域包括支援のあるまちづくり 等 ・災害時要援護者支援の姿勢 等
14:50～15:00 (10分)	休憩	
15:00～17:00 (120分)	災害時要援護者支援の 基礎と実際 【ワークショップ1】 サポート拠点	《目標》 サポート拠点の運営についての検討 を通して、災害時要援護者支援の基 礎知識と基本姿勢を習得する 《内容》 サポート拠点の役割と運営体制を検 討するグループワーク

【2日目】

時 間	内 容	
8:30	受付開始	
9:00～10:00 (60分)	災害時要援護者支援の 基礎と実際 【講義2】	《目標》 災害時要援護者支援の基礎知識と基 本姿勢を習得する 《内容》 ①災害時要援護者支援の実際 ・災害時要援護者支援の事例 ・災害時要援護者支援の経験 等
10:00～10:10 (10分)	休憩	
10:10～12:10 (120分)	災害時要援護者支援の 基礎と実際 【ワークショップ2】 広域支援	《目標》 広域支援についての検討と机上訓練 を通して、災害時要援護者支援の基 礎知識と基本姿勢を習得する 《内容》 広域支援のポイントを検討するグル ープワークと机上訓練体験
12:10～13:00 (50分)	昼食・休憩	
13:00～14:00 (60分)	災害時要援護者支援の 基礎と実際 【ワークショップ3】	《目標》 建物・設備の防災対策についての検 討を通して、災害時要援護者支援の

	建物・設備の防災対策	基礎知識と基本姿勢を習得する 《内容》 建物・設備の防災対策を検討するグループワーク
14:00～14:10 (10分)	休憩	
14:10～16:40 (150分)	災害時要援護者支援の 基礎と実際 【ワークショップ4】 BCP	《目標》 BCPの作成体験を通して、災害時 要援護者支援の基礎知識と基本姿勢 を習得する 《内容》 BCPの作成を体験するグループワ ーク
16:40～17:00 (20分)	総括	総括 事務連絡 その他

b. 第2回開発会議

日時：平成25年10月30日

場所：福祉プラザさくら川（東京都港区）

内容：第1回検討委員会での検討を踏まえ、モデル研修の実施に向けて、以下について、意見交換を行った。

●テキスト（案）

【講義1】

「災害の基礎と実際」

【講義2】

「災害時要援護者支援の基礎と実際」①

【講義3】

「災害時要援護者支援の基礎と実際」②

●ワークショップ（案）

【ワークショップ１】

「災害の基礎と実際」

【ワークショップ２】

非常食体験

【ワークショップ３】

「災害時要援護者支援の基礎と実際

～仮設住宅サポート拠点について考える～」

【ワークショップ４】

「災害時要援護者支援の基礎と実際

～災害福祉広域支援について考える～」

【ワークショップ５】

「災害時要援護者支援の基礎と実際

～事業継続計画（BCP）について考える～」

参加者：野田 毅	（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地）
中田 年哉	（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉東北地方太平洋沖地震被災地）
斉藤 隆	（特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会事務局事務局長・認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室）
安井 あゆみ	（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員・認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室室長）

検討結果

検討内容について、以下のような議論を行った。

●テキスト（案）

【講義１】「災害の基礎と実際」は、以下の章立てとした。

第１章 災害の基礎と実際

第１節 災害の基礎知識

- １．災害とは
 - １.１. 災害の定義
 - １.２. 災害の種類
- ２．災害対策のために知っておくべきこと
 - ２.１. 大地震の発生確率
 - ２.２. 自助・互助・共助・公助
 - ２.３. 災害時要援護者とは
 - ２.４. 被害規模を決める要因
 - ２.５. 災害サイクル

第２節 災害の実際① 近年の日本における大災害

- １．災害年表
- ２．地震災害
- ３．水害
- ４．火山災害
- ５．原子力災害

第３節 災害の実際② 被災者の現状

- １．避難所の状況
- ２．仮設住宅の状況
- ３．復興住宅の状況
- ４．災害時要援護者支援の状況

【講義２】「災害時要援護者支援の基礎と実際」①は、以下の章立てとした。

第２章 災害時要援護者支援の基礎と実際

第１節 災害時要援護者支援の基礎知識

- １．災害時要援護者支援とは
- ２．災害時要援護者支援のための検討項目

第2節 災害時要援護者支援の実際

1. 災害時の福祉サービス事業所の状況
～新潟県中越地震におけるこぶし園の状況～
2. 福祉サービス提供者としての役割
 - 2.1. 被災直後の対応
 - 2.2. 被災後1週間の対応
 - 2.3. 継続的な支援
3. 地域の構成員としての役割
(福祉関係団体の役割)
 - 3.1. 社会福祉団体の役割
 - 3.2. 福祉避難所の運営と支援
 - 3.3. 仮設住宅への支援
(仮設住宅サポート拠点の運営と支援)
 - 3.4. 地域包括ケアのまちづくり

【講義3】「災害時要援護者支援の基礎と実際」②は、以下の章立てとした。

第3節 災害準備

1. 連携
2. 事業継続計画（BCP）の策定
 - 2.1. BCPとは
 - 2.2. 福祉サービス事業所における
BCPの策定手順
 - 2.3. 災害時対応業務の選定例
 - 2.4. 通常業務の選定例

巻末付録

付録1

平成24年度社会福祉推進事業「災害時要援護者の広域支援体制の検討と基盤づくり」概要報告

付録2

平成24年度老人保健事業推進費等補助金事業「東日本大震災仮設住宅サポートセンターの実態調査」概要報告

付録3 研修の構成

●ワークショップ（案）

【ワークショップ1】「災害の基礎と実際」は、以下の内容とした。

《目標》災害をイメージする力を養う

《内容》災害体験についてのヒヤリング素材を元にした
エスノグラフィ

【ワークショップ2】非常食体験は、以下の内容とした。

《目標》災非常食の現状を知る

《内容》様々な種類の非常食を体験し、体験についての
意見交換を行う

【ワークショップ3】「災害時要援護者支援の基礎と実際
～仮設住宅サポート拠点について考える～」は、以下の内容
とした。

《目標》仮設住宅サポート拠点の運営について考える
検討を通して、災害時要援護者支援の基礎知識
と基本姿勢を習得する

《内容》グループワーク

【ワークショップ4】「災害時要援護者支援の基礎と実際
～災害福祉広域支援について考える～」は、以下の内容とし
た。

《目標》災害福祉広域支援について考える
検討を通して、災害時要援護者支援の基礎知識
と基本姿勢を習得する

《内容》グループワーク

【ワークショップ5】「災害時要援護者支援の基礎と実際
～事業継続計画（BCP）について考える～」は、以下の内
容とした。

《目標》事業継続計画（BCP）策定の基本を学ぶ
検討を通して、災害時要援護者支援の基礎知識
と基本姿勢を習得する

《内容》グループワーク

c. 第3回開発会議

日時 : 平成 25 年 12 月 4 日

場所 : 福祉プラザさくら川 (東京都港区)

内容 : モデル研修の実施に向けて、以下について、最終の意見交換を行った。

●研修プログラム VER. 1

【講義 1】

「災害の基礎と実際」

【ワークショップ 1】

「災害の基礎と実際」

【ワークショップ 2】

非常食体験

【講義 2】

「災害時要援護者支援の基礎と実際」①

【ワークショップ 3】

「災害時要援護者支援の基礎と実際

～仮設住宅サポート拠点について考える～」

【講義 3】

「災害時要援護者支援の基礎と実際」②

【ワークショップ 4】

「災害時要援護者支援の基礎と実際

～災害福祉広域支援について考える～」

【ワークショップ 5】

「災害時要援護者支援の基礎と実際

～事業継続計画 (BCP) について考える～」

●第1回モデル研修 実施体制 (担当)

参加者 : 小山 剛	(高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／ 新潟県中越地震被災地)
野田 毅	(社会福祉法人東北福祉会本部次長／高齢者福祉／ 東北地方太平洋沖地震被災地)
中田 年哉	(社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉)

東北地方太平洋沖地震被災地)

斉藤 隆 (特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会事務局事務局長・認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室)

安井 あゆみ (特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員・認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室室長)

検討結果

検討内容について、以下のような議論を行った。

●研修プログラム VER. 1

【講義1】「災害の基礎と実際」【講義2】「災害時要援護者支援の基礎と実際」①【講義3】「災害時要援護者支援の基礎と実際」②については、以下の確認を行った。

- ・テキストの最終確認

- ・パワーポイントの確認

【ワークショップ1】「災害の基礎と実際」【ワークショップ2】非常食体験【ワークショップ3】「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～仮設住宅サポート拠点について考える～」

【ワークショップ4】「災害時要援護者支援の基礎と実際～災害福祉広域支援について考える～」【ワークショップ5】「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～事業継続計画（BCP）について考える～」については、以下の確認を行った。

- ・ワークショップ教材の確認

- ・パワーポイントの確認

●第1回モデル研修 実施体制（担当）

第1回モデル研修は、以下の担当で行うこととした。

【講義1～3】講師

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード

代表理事

小山 剛

【ワークショップ1～5】講師

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード

企画室長

安井 あゆみ

【ワークショップ1～5】コメンテーター

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード

代表理事

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード

宮城支部

野田 毅

社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会

中田 年哉

(2) 研修プログラム VER.1 の検証 (第1回モデル研修の実施)

研修プログラム VER.1 の検証のために、以下のようにモデル研修を実施した。

先述したように、災害福祉広域支援ネットワークのプラットフォームづくりは、まだ検討が始まったという段階で、モデル研修の対象となるのは難しい状況にある。そこで、現地調整協力が可能な社会福祉法人のある都道府県の中から、モデル研修実施都道府県（案）を選定した。選定にあたっては、大災害の予測がある都道府県、つまり災害への意識が高いとされている都道府県と、災害の少なく災害への意識が低いとされている都道府県の両方を含む形で行った。

検討委員会での検討し、最終的なモデル研修実施都道府県は、以下となった。

【モデル研修実施都道府県と現地調整協力者】

第1回モデル研修

山口県

部坂 佳生 (認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク)

ク・サンダーバード山口支部・社会福祉法人青藍会／
高齢者福祉・児童福祉)

第2回モデル研修

高知県

上村 敏彦 (認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード高知支部・社会福祉ふるさと自然村／高齢者福祉)

第3回モデル研修

静岡県

久保田 緑 (認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード静岡支部・社会福祉法人湖成会／高齢者福祉)

第1回モデル研修の実施結果は以下の通り。

a. 第1回モデル研修 山口県「サンダーバード災害福祉広域支援研修Ⅰ」

日時 : 平成26年1月16日, 17日

場所 : ハートホーム山口 (山口県山口市)

現地調整協力

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード 山口支部
社会福祉法人青藍会 (山口県山口市)

呼びかけ先

高齢者福祉団体
障がい者福祉団体
児童福祉団体
医療団体
行政団体 (県, 市町村)
社会福祉協議会 等

参加者 : 高齢者福祉団体
障がい者福祉団体
児童福祉団体

医療団体
山口県
山口県老人保健施設協議会

実施体制：小山 剛（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉
新潟県中越地震被災地）
野田 毅（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉
東北地方太平洋沖地震被災地）
中田 年哉（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福
祉東北地方太平洋沖地震被災地）
安井 あゆみ（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員・
認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワ
ーク・サンダーバード企画室室長）

プログラム

【1日目】

時 間	内 容	達成目標
9:00 ～ 9:10 (10 分)	【オリエンテーション】 趣旨説明 日程説明 等	講座の概要を知る
9:10 ～ 9:30 (20 分)	【情報提供】 「各都道府県の災害対策について ～災害時要援護者支援の視点から～」 各都道府県防災担当課	各都道府県の災害 対策（害時要援護 者 支 援 対 策 を 含 む）の実情を知る
9:30 ～ 10:30 (60 分)	【講義 1】 「災害の基礎と実際」	災害をイメージす る力を養う
10:30 ～ 10:45 (15 分)	休憩	
10:45 ～ 12:00 (75 分)	【ワークショップ 1】 「災害の基礎と実際」	
12:00 ～ 13:00 (60 分)	【ワークショップ 2】 非常食体験 (昼食・休憩を兼ねる)	非常食の現状を知 る
13:00 ～	非常食についての意見交換	

13:30 (30分)		
13:30 ～ 15:00 (90分)	【講義 2】 「災害時要援護者支援の基礎と実際」①	災害時要援護者支援の基礎知識と基本姿勢を習得する
15:00 ～ 15:15 (15分)	休憩	
15:15 ～ 17:15 (120分)	【ワークショップ 3】 「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～仮設住宅サポート拠点について 考える～」	仮設住宅サポート拠点の運営について考える 検討を通して、災害時要援護者支援の基礎知識と基本姿勢を習得する
17:15 ～ 17:30	【1 日目総括】 【諸連絡】	

【2 日目】

時 間	内 容	
8:30	受付開始	
9:00 ～ 10:00 (60分)	【講義 3】 「災害時要援護者支援の基礎と実際」②	災害時要援護者支援の基礎知識と基本姿勢を習得する
10:00 ～ 10:15 (15分)	休憩	
10:15 ～ 12:15 (120分)	【ワークショップ 4】 「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～災害福祉広域支援について考える ～」	災害福祉広域支援について考える 検討を通して、災害時要援護者支援の基礎知識と基本姿勢を習得する
12:15 ～ 13:15 (60分)	昼食・休憩	
13:15 ～	【ワークショップ 5】	事業継続計画（B

15:15 (120 分)	「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～事業継続計画（BCP）について 考える～」	C P）策定の基本 を学ぶ 検討を通して、災 害時要援護者支援 の基礎知識と基本 姿勢を習得する
15:15 ～ 15:30 (15 分)	休憩	
15:30 ～ 16:00 (30 分)	最終レポート アンケート	
16:00 ～ 17:00 (60 分)	総括	総括 事務連絡 その他

アンケート

調査項目

Q 1. 2 日間の研修全体の感想（選択）

- 1) たいへん良かった 2) 良かった 3) やや期待はずれだった
4) 期待はずれだった

Q 2. 「第 1 章 災害の基礎と実際」の、講義，ワークショップ，資料等
への感想・意見

Q 3. 「第 2 章 災害時要援護者支援の基礎と実際」の、講義，ワークシ
ョップ，資料等への感想・意見

Q 4. 日程、時間配分、会場等についての意見

Q 5. その他の意見

調査票

参考資料参照 「サンダーバード災害福祉広域支援研修 I 【山口】ア
ンケート」調査票

調査結果

回答率 90% 回答 18／参加者数 20 名

Q 1. 2 日間の研修全体の感想（選択）

回答	人数	割合
1) たいへん良かった	8 人	44. 4%
2) 良かった	7 人	38. 9%
3) 期待はずれだった	0 人	0%
4) どちらでもない	0 人	0%
未記入	3 人	16. 7%
合計	18 人	—

Q 2. 「第 1 章 災害の基礎と実際」の、講義、ワークショップ、資料等への感想・意見

- ・災害の悲惨さについて、もう少し詳しく聞きたい。
- ・ワークショップは、被災者の心情を非常にリアルに感じることができた。
- ・山口県による現状報告では、貴重な話と資料をいただく事ができて良かった。
- ・ワークショップは初めての経験だったが、色々な意見が出てとても参考になった。
- ・災害対策における基本的な知識を学べた。各地域の災害の映像を見ることもできた。
- ・ワークショップ形式をとっているため、自分以外の方の意見や考え方を知ることができた。災害支援や、災害そのものの恐ろしさを改めて知ることができた研修だった。
- ・実際の災害の状況を踏まえた資料なので、現実がよく分かった。
- ・日本は災害列島であるにも関わらず国民の意識は薄く、連携の歯車も回っていないと感じた。災害が起こった時だけでなく、日頃から支え合う関係をどう築くかが課題である。災害への認識への甘さを感じた。
- ・実際に起きた災害の様子がまとめられていて生々しい状況が伝わってきた。考えさせられる事が多くあった。地震列島の日本では危機感を持って生活をする必要があると感じた。
- ・地震はかなりの確率で将来発生するということが再認識できた。普段からの備えが重要であることも再認識できた。
- ・基礎からではあるが知らなかったことが多かった。
- ・災害の経験があまりないため、有事を具体的にイメージすることがなかった。日頃の訓練で、どのくらいの時間でどこま

でできるか、自分達の能力を知ることが大切だと思った。

- ・マニュアルが全てではなく、訓練での経験をもとに判断することが求められることも分かった。
- ・非常食は美味しいものではないと思った。災害現場では使われていないことも知った。発想の転換期だと感じた。
- ・国が発生予想を出しても、現場では予防していないことが問題であると改めて感じた。これまでの訓練がどこまで役立つか疑問に感じた。今までの方法を見直したい。
- ・平素からの備えと、本番での判断の重要性が認識できた。いろいろな経験を積むことで人間の判断力も向上する。この研修もその一助となると思う。
- ・被災地のボランティアに基礎的な知識もなく参加していたが、今回の研修で変わったと感じている。
- ・BCPを初めて知り勉強になった。
- ・実際の活動経験をもとにした実質的、技能的な内容で大変勉強になった。
- ・講義の内容は大変興味深く非常に勉強になった。ワークショップは、もっと意見交換をして具体的にしていきたいかった。
- ・「こんな時どうすれば良い」といった意見が聞けると良い。
- ・映像等がためになった。
- ・普段災害についてほとんど意識していない。自分自身への意識づけになり良い機会となった。
- ・感染症などと同じように災害も予防すべきであること、その意識の大切さを知ることができ、大変勉強になった。

Q 3. 「第2章 災害時要援護者支援の基礎と実際」の、講義、ワークショップ、資料等への感想・意見

- ・支援力という言葉は普段から聞きなれていたが、受援力も大きな能力になることを知った。
- ・映像やカラー資料等による講義はとてもわかりやすかった。被災地に入ったことのない人間にも災害時の様子がイメージできた。
- ・被災地での活動の一日の流れ等、不規則だと思うが教えてほしい。イメージが深まると思う。
- ・プレートリアージダッグ等、実物があると更に意識が高まる。
- ・様々な視点からの意見がとても参考になった。
- ・実際に災害支援を行う上での心構えや具体的な準備物について

での知識を得られた。災害発生直後から長期的、継続的支援が必要であること、様々な資源（人・物）を活用することが重要であることも学べた。

- ・支援できる内容と支援してほしい内容との差がある事、普段から災害をイメージし訓練を実施していないと実際に動けないことが分かった。ワークショップはイメージをする上で有意義な時間であった。
- ・平時の準備と、有事の指揮ができる人材育成が必要と感じた。
- ・ワークショップは、経験がないため、的を得ない意見をだしてしまった。難しかった。
- ・BCPと受援力が参考になりました。
- ・災害時要援護者についてしっかり理解できた。
- ・災害時要援護者支援は、日常生活を継続していくことであることが分かった。日頃から、どうすれば継続できるか考えていきたい。
- ・BCPにおける一般企業と福祉事業者の違いを知った。福祉は安易にやめる選択ができない。優先順位を考えて支援していく必要がある。
- ・具体例を増やしてほしい。
- ・「受援力」という言葉を新しく知った。山口県は比較的災害が少ないので、支援することを中心に考えていた。支援に行く側も基本的な知識を持ち、準備をすることが必要であるが、支援を受ける側も、体制やマネジメントする能力を作っておくことが大切である。「受援力」に関しては今後法人に持ち帰り検討したい項目である。
- ・ワークショップにより疑似体験ができ、認識を改めることができた。この研修を地域で行うと地域住民の認識も深まると思う。
- ・山口市は災害が少ないので今まで受援者となることを考えることが無かった。今回はいろいろな立場になってイメージすることができて、良かった。
- ・わかり易かったです。
- ・ワークショップで支援をする側とされる側の両方の立場に立って考えたことで、よりイメージできるようになった。BCPについては難易度が高かったが、普段からこれだけ考えていないと災害時には動けないだろうと思った。
- ・講義はとても勉強になった。

- ・BCPのワークショップでは少し理解するのに時間がかかった、もう少し時間を取って説明してほしい。
- ・BCPについて、ワークショップは、作成例があったほうが、スムーズに行えたと思う。
- ・訓練等で分かった気分になっている部分があるが、実際に自分事として考え、いつ災害がおきても対応できるようにしておく必要性を感じた。
- ・災害の支援は、自力で生活できる人でないと迷惑になることを知った。事前の準備・体制が必要だと思った。
- ・サポート拠点について、立ち上げに関する苦労や課題など、もっと具体的な話が聞きたい。

Q 4. 日程、時間配分、会場等についての意見

- ・時間配分に対して内容が盛り沢山だったように感じる。
- ・とても充実して中身の濃い研修だった。会場も素晴らしく、集中して取り組めた。
- ・日程、時間ともに長時間になるので、興味を持たれても参加できない方がいるように思う。
- ・今回の研修の内容・ボリュームを考えると、日程・時間配分は適当だと思う。
- ・会場は公共のものを使用しても良いと思う。
- ・参加者の拡大が必要と考える。(多くの職能団体、法人等)
- ・アクセスの心配のいらぬ季節が望ましい。
- ・会場は良かった。
- ・講義がもう少しゆっくり聞きたかった。時間が足りなかった。
- ・充実した研修内容であった。時間があれば、もっと勉強したいと思った。
- ・もっとさまざまな法人の人を集めて、意見交換できると良い。
- ・適当である。
- ・思考能力を考えると、90分に1回は休憩がほしい。
- ・長時間だったが勉強になった。
- ・会場はとても研修が受け易い環境だった。時間配分も特に無理のある配分とは感じなかった。
- ・ワークショップは間に休憩を設けてほしい。
- ・ワークショップの内容によっては、もっと時間が必要であると感じた。
- ・スムーズに分かりやすく進めてもらえてよかった。

Q 5. その他の意見

- ・サンダーバードの活動が、災害のない時期・場所にこそ必要だと感じた。
- ・ワークショップの各グループに被災経験者が入ると生の意見が参考になる。

事前レポート・事後レポート

参考資料参照 「第1回モデル研修 山口県 事前レポート&最終レポート」



第1回モデル研修 山口県



第1回モデル研修 山口県

第1回モデル研修 山口県



第1回モデル研修 山口県



第1回モデル研修 山口県



第1回モデル研修 山口県



(3) 研修プログラム VER.2 の作成 (第4回開発会議の実施)

研修プログラム VER.2 の作成のために、以下のように開発会議を実施した。

a. 第4回開発会議

日時 : 平成26年2月12日

場所 : 福祉プラザさくら川 (東京都港区)

内容 : 第1回モデル研修結果をもとに、以下について、意見交換を行った。

●研修プログラム VER.1

【講義1】

「災害の基礎と実際」

【ワークショップ1】

「災害の基礎と実際」

【ワークショップ2】

非常食体験

【講義2】

「災害時要援護者支援の基礎と実際」①

【ワークショップ3】

「災害時要援護者支援の基礎と実際

～仮設住宅サポート拠点について考える～」

【講義 3】

「災害時要援護者支援の基礎と実際」②

【ワークショップ 4】

「災害時要援護者支援の基礎と実際
～災害福祉広域支援について考える～」

【ワークショップ 5】

「災害時要援護者支援の基礎と実際
～事業継続計画（BCP）について考える～」

●第2回モデル研修 実施体制（担当）

参加者：小山 剛	（高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉／新潟県中越地震被災地）
野田 毅	（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地）
中田 年哉	（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉東北地方太平洋沖地震被災地）
斉藤 隆	（特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会事務局事務局長・認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室）
安井 あゆみ	（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員・認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室室長）

検討結果

検討内容について、以下のような議論を行った。

●研修プログラム VER. 1

○【講義 1】「災害の基礎と実際」【講義 2】「災害時要援護者支援の基礎と実際」①【講義 3】「災害時要援護者支援の基礎と実際」②については、以下の確認を行った。

- ・講義 2 と講義 3 は、まとめて講義 2 として行うこととする。ワークショップに講義の進め方を合わせるのは難しいため。
- ・講義をまとめ、初日に行うと、2 日目がグループワークばかりになるので、気分転換の意味を兼ねて、一人

で行うワークショップを追加する。

- ・テキスト及びパワーポイントに一部修正を加える。
(詳細は省略)

○【ワークショップ1】「災害の基礎と実際」については、以下の確認を行った。

- ・本ワークショップは、アンケート結果によると大変好評であった。また、講師の感覚として、時間を延ばすことでより良い効果が得られると判断した。よって、次回より、時間を延長して実施する。

○【ワークショップ2】非常食体験については、以下の確認を行った。

- ・他のワークショップの時間を長くするために、非常食体験は削除する。非常食は、東日本大震災でも新潟県中越地震の際にも多くの施設で使用されていないことから、プログラムから削除しても問題ない考える。

○【ワークショップ3】「災害時要援護者支援の基礎と実際～仮設住宅サポート拠点について考える～」については、

- ・特に変更なくこのまま実施する。

○【ワークショップ4】「災害時要援護者支援の基礎と実際～災害福祉広域支援について考える～」については、以下の確認を行った。

- ・本ワークショップは、アンケート結果によると大変好評であった。また、講師の感覚として、時間を延ばすことでより良い効果が得られると判断した。よって、時間を延長して実施する。

○【ワークショップ5】「災害時要援護者支援の基礎と実際～事業継続計画（BCP）について考える～」については、以下の確認を行った。

- ・本ワークショップは、理解が難しいプログラムである。そこで、時間を十分に設け、ワークショップ前に、BCPについて、丁寧な復習を行うこととする。

- ・BCPは説明だけで理解することは難しいものであること、自分で作る過程で理解できるようになるものであることを、何度も伝えていく。

○その他、以下の確認を行った。

- ・休憩は、1回の時間が短くても良い。頻度を増やす。
- ・本研修がモデル研修であり、受講生の意見をもらうためのものであることを、何度もきちんと伝えながら実施していく。
- ・できるだけ多くの意見をもらえるよう、アンケートは、1日目と2日目に分けて行う。イメージが新しい内に書いてもらうことで、より良い意見が収集できる。

●第2回モデル研修 実施体制（担当）

次年度以降の講師育成プログラムの参考にするため、第2回モデル研修では、以下のように担当を一新することとした。

【講義1】「災害の基礎と実際」

講師

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード

宮城支部

野田 毅

【講義2】「災害時要援護者支援の基礎と実際」

講師

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード

代表理事

小山 剛

【ワークショップ1】「災害の基礎と実際」

講師

社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会

中田 年哉

【ワークショップ3】「災害時要援護者支援の基礎と実際
～災害福祉広域支援について考える～」

講師

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワー
ク・サンダーバード

宮城支部

野田 毅

【ワークショップ2】「災害時要援護者支援の基礎と実際
～仮設住宅サポート拠点について考える～」

【ワークショップ4】災害イメージトレーニング（個人のワ
ークショップ）

【ワークショップ5】「災害時要援護者支援の基礎と実際
～事業継続計画（BCP）について考える～」

講師

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワー
ク・サンダーバード

企画室長

安井 あゆみ

【ワークショップ】

コメンテーター

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワー
ク・サンダーバード

代表理事

小山 剛

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード

宮城支部

野田 毅

社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会

中田 年哉

(4) 研修プログラム VER.2 の検証 (第2回モデル研修, 第3回モデル研修の実施)

研修プログラム VER.2 の検証のために、以下のようにモデル研修を実施した。

実施結果は以下の通り。

a. 第2回モデル研修 高知県「サンダーバード災害福祉広域支援研修Ⅰ」

日時 : 平成26年2月26日, 27日

場所 : 介護老人保健施設 夢の里 (高知県南国市)

現地調整協力

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード 高知支部

社会福祉法人ふるさと自然村 (高知県南国市)

呼びかけ先

高齢者福祉団体

障がい者福祉団体

児童福祉団体

医療団体

行政団体 (県, 市町村)

社会福祉協議会 等

参加者 : 高齢者福祉団体

障がい者福祉団体

児童福祉団体

実施体制 : 小山 剛 (高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／高齢者福祉
新潟県中越地震被災地)

野田 毅 (社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉
東北地方太平洋沖地震被災地)

中田 年哉 (社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福祉東北地方太平洋沖地震被災地)

安井 あゆみ (特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員・認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード企画室室長)

プログラム

【1日目】

時 間	内 容	達成目標
8:30	受付開始	
9:00 ～ 9:10 (10 分)	趣旨説明 日程説明 等	
9:10 ～ 9:30 (20 分)	【情報提供】 「各都道府県の災害対策について ～災害時要援護者支援の視点から～」 各都道府県防災担当課等	各都道府県の災害対策（害時要援護者支援対策を含む）の実情を知る
9:30 ～ 10:30 (60 分)	【講義 1】 「災害の基礎と実際」	災害をイメージする力を養う
10:30 ～ 10:40 (10 分)	休憩	
10:40 ～ 12:20 (100 分)	【ワークショップ 1】 「災害の基礎と実際」	
12:20 ～ 13:05 (45 分)	昼食・休憩	
13:05 ～ 15:05 (120 分)	【講義 2】 「災害時要援護者支援の基礎と実際」	災害時要援護者支援の基礎知識と基本姿勢を習得する
15:05 ～ 15:15 (10 分)	休憩	
15:15 ～	【ワークショップ 2】	仮設住宅サポート

17:15 (120 分)	「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～仮設住宅サポート拠点について 考える～」	拠点の運営について考える 検討を通して、災害時要援護者支援の基礎知識と基本姿勢を習得する
17:15 ～ 17:30	1 日目総括 諸連絡 アンケート	

【2 日目】

時 間	内 容	
8:30	受付開始	
9:00 ～ 9:10 (10 分)	昨日の気づき 日程確認 等	
9:10 ～ 11:30 (140 分)	【ワークショップ 3】 「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～災害福祉広域支援について 考える～」	災害福祉広域支援について考える 検討を通して、災害時要援護者支援の基礎知識と基本姿勢を習得する
11:30 ～ 12:30 (60 分)	昼食・休憩	
12:30 ～ 13:00 (30 分)	【ワークショップ 4】 災害体験ゲーム	ゲームを通じて、災害体験する
13:00 ～ 15:50 (160 分 + 休憩 10 分)	【ワークショップ 5】 「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～事業継続計画（BCP）について 考える～」	事業継続計画（BCP）策定の基本を学ぶ 検討を通して、災害時要援護者支援の基礎知識と基本姿勢を習得する
15:50 ～ 16:00	休憩	

(10 分)		
16:00 ～ 16:30 (30 分)	最終レポート アンケート	
16:30 ～ 17:00 (30 分)	全体総括 諸連絡	

アンケート

調査項目

《1 日目》

Q 1. 1 日目の研修全体の感想（選択）

- 1) たいへん良かった 2) 良かった 3) やや期待はずれだった
4) 期待はずれだった

Q 2. 講義 1 「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Q 3. ワークショップ 1 「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Q 4. 講義 2 「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

Q 5. ワークショップ 2 「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～仮設住宅 サポート拠点について考える～」についての感想・意見

Q 6. その他の意見

《2 日目》

Q 1. 2 日目の研修全体の感想（選択）

- 1) たいへん良かった 2) 良かった 3) やや期待はずれだった
4) 期待はずれだった

Q 2. ワークショップ 3 「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～災害福祉 広域支援について考える～」についての感想・意見

Q 3. ワークショップ 4 「災害体験ゲーム」についての感想・意見

Q 4. ワークショップ 5 「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～事業継続 計画（BCP）について考える～」についての感想・意見

Q 5. 本研修全体の、日程、時間配分、会場等についての意見

Q 6. その他の意見

調査票

参考資料参照 「サンダーバード災害福祉広域支援研修Ⅰ【高知】アンケート」調査票

調査結果

《1日目》

回答率 76.5% 回答 13／参加者数 17 名

Q 1. 2 日間の研修全体の感想（選択）

回答	人数	割合
1)たいへん良かった	5 人	38.5%
2)良かった	7 人	53.8%
3)期待はずれだった	0 人	0%
4)どちらでもない	0 人	0%
未記入	1 人	7.7%
合計	13 人	—

Q 2. 講義1「災害の基礎と実際」についての感想・意見

- ・ 基本的な座学としては十分だと思った。
- ・ 写真やビデオで実際の様子に分かって良かった。
- ・ 夜間訓練の必要性がわかった。
- ・ 応急対策（避難等）の話は聞いたことがあったが、仮設住宅の状況は知らなかった。仮設住宅の状況と支援策について知る事ができたのは良かった。
- ・ 災害にもいろんな種類のものがあること、自分が怪我をしないで生き残らないと人を支援できないこと等を知った。
- ・ 自助共助で助かる割合が 72%で公助が 28%という数字に、びっくりした。近隣を知り、情報を持っていることが重要だと思った。
- ・ 忘れてしまったことや、知らないことも多く、参考になった。被災のイメージが明確になったわけではないが、ぼんやりとしたイメージはできた。災害時は判断一つで状況が大きく違ってしまう。この現実是非常に重く、難しい問題である。
- ・ 知らなかったことを知ることができた。
- ・ 知ることの重要性を感じた。東日本大震災の時は、映像を見

でも現実味がなかった。この研修で、これまで、空想のものでしかなかった津波を知ってしまった。知った以上生き延びようと思う。今なら対策は立てられる。生き延びて、自助から共助、公助が支援の橋渡しをしたいと思う。

- ・自然の脅威を改めて感じた。
- ・基礎知識と実際の話が聞けて、改めてやらなくてはと思った。
- ・理解できていない事が多く、とても良い勉強となった。
- ・災害をイメージする力をつけるのは、なかなか難しい。実際に被災され苦しい思いをされた講師の声が最も響く。

Q 3. ワークショップ1「災害の基礎と実際」についての感想・意見

- ・災害をイメージし、それにどう対処するのかを考えるうえで良い内容だと思う。被災状況をより具体的にイメージするため、地図があればなお良かった。
- ・命令・指揮系統の確立と情報の共有方法を決めておくことが大切だと感じた。その場の判断と、他者からの指導をどう受け入れるかが難しいと感じた。訓練を重ね、修正していくことが必要だと思う。
- ・一つの事例に基づくことで、参加者の話がかみ合い議論を深めることができた。高齢者施設の介護職員の体験の素材があると良い。
- ・どれだけ訓練をしていても、被災時にはその時の判断が求められることを実感した。訓練していても出来ないのに、普段何もしていない所はどうなるのだろうかと恐ろしくなった。家庭でも、職場でも、地域でも、災害に対する構えと訓練が必要だと声を大にして言いたい。啓蒙が大切である。
- ・自分とは違う視点・考えを知る事ができ、またその考えを全体として整理する事は非常に勉強になった。
- ・判断の大切さを改めて感じた。
- ・実際の生の声そのままの文章は印象的だった。文章の中の施設長が素晴らしいと感じた。体験しなければ体は動かない。日頃の訓練とその場での判断が重要である。
- ・被災された方の生の声を知り、それを基に考えたことで、災害イメージが変わった。
- ・色々な意見が聞けて良かった。
- ・1人より2人、2人より3人、集まるほどにいろんな考えが分かる。まとめていくことで楽しく理解できた。

- ・テレビで観るのではなく、読むことで、想像できることがある。

Q 4. 講義2「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

- ・元の地域に戻るための自立支援について、実際の経験をもう少し聞きたい。
- ・連携体制が事前に確立されていることが重要だと思った。災害時は連携が不可欠だと感じた。
- ・これまで聞いたことのない話が聞けて有益だった。反面、論点が多岐にわたり過ぎ、最低限何を持って帰ってほしいかが分かりにくかった。参加者の復命やレジメ作成の段階までイメージして講義内容を整理してほしい。
- ・災害に対する準備と実践について、多くのことを考えた。
- ・プラットフォームの設置を急ぐべきと思った。
- ・災害後の支援としてサポート拠点が非常に大事であることは認識できた。
- ・これからさまざまな見直しをしていかねばならないと思った。
- ・実際の災害発生時にどのようにして対応していたのかが分かった。映像では心が震える思いがした。
- ・職員はスーパーマンではないという言葉がひびいた。
- ・サンダーバードの意義を感じた。
- ・具体的で分かりやすい説明で、頭に入りやすかった。
- ・内容はあまり詳しくなかったが、写真でよくわかった。
- ・被災時の想像はつかないが、出来ることから対策を始めなければならないと思った。

Q 5. ワークショップ2「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～仮設住宅サポート拠点について考える～」についての感想・意見

- ・前半の課題が少し漠然としていて、取り掛かりに時間を要した。
- ・仮設住宅の支援を特別のものと考えず、平時からのサポート拠点を作り、活動していれば、対応できることが分かった。
- ・狙いが分かりにくかった。仮設での生活を考えることは実は日常の高齢者等の要援護者支援に繋がるということが実感でき、その意味では良かった。
- ・サポート拠点の運営は、ニーズをいかにつかんでサービスを提供できるかだと思う。それには多くの人々の得意分野を知

る事や個人情報等が必要だと思った。

- ・行政や社会福祉協議会がサポート拠点の運営担当になるのは無理だと思った。
- ・サポート拠点のイメージがなかなか出来ず難しかった。他人との意見のすり合わせにより、ある程度イメージができた。
- ・勉強していくことが大切だと感じた。
- ・仮設住宅の話でも、まちづくりをしている感覚で楽しい気持ちになった。実際暮らす人々にとっても楽しいまちになると良いと思いながら参加した。
- ・拠点づくりのイメージはできた。体制作りが難しいと思った。
- ・仮設に入らなければならない状況の時、誰が何の役割を果たすのか、役場や行政とタイアップして検討する必要がある。
- ・自分の頭で考えることが大事だと痛感した。漠然とした中から次第に考えがまとまっていった。発表後の先生方の解説によって、足りている所、足りてなかった所が理解できた。
- ・いろいろな意見が聞けて、良い研修となった。ワークショップは良い。
- ・他機関、企業との日常からの連携が必要だと感じた。

Q 6. その他の意見

- ・難しかったが、考えていく事が大事である事は分かった。
- ・被災時の苦しいお話をして下さったこと、有難く思います。

《2日目》

回答率 76.5% 回答 13／参加者数 17 名

Q 1. 2 日間の研修全体の感想（選択）

回答	人数	割合
1)たいへん良かった	6 人	46.2%
2)良かった	6 人	46.2%
3)期待はずれだった	0 人	0%
4)どちらでもない	0 人	0%
未記入	1 人	7.6%
合計	13 人	—

Q 2. ワークショップ3「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

- ・事前準備の大切さが分かった。

- ・支援を受ける側も支援する側もあらゆる事を想定しておく事が必要だと感じた。
- ・広域支援にはさまざまな協力が必要である。自分の属する組織について考える良い機会だった。
- ・ワークショップ5（BCP）をやってから、広域支援のワークショップを行うと、よりリアルに考えられると思った。
- ・支援に入る時より、外部支援を受ける想定の方が考えることが多く、困ってしまった。支援を受ける側の訓練も必要だと思った。
- ・支援では、情報収集やとりまとめ機関がとても大切な役割を持つことを学んだ。受援では、情報発信の方法を確立しておくことが大切だと思った。
- ・組織を動かし、連携するためには強いリーダーシップが無いと難しい。経営者向けのアプローチも必要と思った。
- ・現場で動く立場なので、これまでは、計画を立てたり、考えることはなかった。被災時には施設長が必ず居るとは限らない。自分しか居ない場合もある。その時に困らないように、受け身ではなく、自分もリーダーシップを取っていけるようこれから考えていこうと思う。

Q 3. ワークショップ4「災害体験ゲーム」についての感想・意見

- ・やり方の簡単なマニュアルが欲しかった。
- ・自分があつてこそ他を守れる。確かにそうだと思った。
- ・災害が起こった時、自分は何を一番にしなければならないか、とっさに対応できるよう日頃から考えておくことが大切だと思った。
- ・名称は「ゲーム」より「トレーニング」が良いと思う。短時間で出来るのに、災害に関わる非常に重要なことについて考えられるので良いワークショップだと思った。
- ・他の方の意見が見られたのは良かった。息抜きできました。
- ・自分の命は守られていることを前提に考えてしまうので、最初に自分の命を大事なものに入れて考えてもらおうと良いと思った。自分に引き付けて考える事ができるので良いと思った。
- ・簡単に出来るゲームなのに、深く考えることができる内容だった。今後職員に行ってみたいと思った。
- ・自分が大切にしているものを知る事ができた。本当の災害時にどうなるのか……と思った。

- ・ワークショップ3に続いてこのトレーニングをしてみると、
すごく考えさせられる。貴重な体験だった。
- ・短時間にできて、被災をイメージできる良い方法だと思う。
- ・自分にとって何が大事か、いざという時に何を選ぶのか考えたこともなかったので、自分を知るいい経験になった。
- ・命の選択をしたようで、今までにない体験だった。

Q 4. ワークショップ5「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～事業継続計画（BCP）について考える～」についての感想・意見

- ・施設での対応を事前に準備する大切さが分かった。作成出来る様努力していきたい。
- ・人と集まってやれば色々な考えが出る。
- ・出来るだけ早く通常業務が再開できるように、自分の役割を考えたい。施設に帰ってこの話ができるようにしたい。
- ・BCPの清潔面と食事面は、どちらか一方でも良いと思う。課題が次々出ると頭の切り替えが大変である。
- ・いろいろと課題が見えて来たので防災計画、訓練に生かしたい。
- ・具体的に考えることができて大変良かった。
- ・他の施設の意見が参考になった。
- ・BCPは、もっと時間を取って職場で考えたいと思った。みんなが理解をすることが大切だと感じた。
- ・備蓄と避難所があるので安心していましたが、実際足りない部分がたくさんあり、驚いた。
- ・計画を作り、訓練を重ねる事が大切と思う。
- ・BCPを考えてみて、自分の施設の状況で知らない事がたくさんあることに気付いた。学んだ事を現場で生かせるように積極的に働きかけていこうと思う。
- ・BCP（事業継続計画）は、避けることのできない課題である。高知県全体での問題である。
- ・高知では70%の確率で大地震が来ると言われている。BCP作成し、皆で共有する事が必要と思った。
- ・計画が出来るまでのサポートがあると良い。

Q 5. 研修全体の、日程、時間配分、会場等についての意見

- ・ワークショップ自体初めてでしたが、いい経験になった。
- ・講義ばかりではなく、グループで意見を出し合う方法は、自分で考える力もつくし、他の人の意見も聞けるので、とても

良いと思った。自分では考えつかないような色々な意見が聞けて良かった。

- ・グループは交流も含め、1日目と2日目のメンバーを替えても良いと思った。
- ・ただ聞くだけの研修も多い中、グループワーク中心の研修だったので、自分で考える事、気づく事が多くあった。議論となり面白かった。内容も濃く有意義だった。
- ・国の働き、役割、どんな事ができるか等についてもっと知りたい。
- ・初めての参加で、難しいと思っていたが、とても有意義な時間だった。
- ・なかなか理解できない所が少なからずあったが、とても大事な事をたくさん学んだ。実際に役立てるように頑張る。
- ・サンダーバードの支部として前向きに協力していきたい。
- ・もう少し休憩が欲しいと感じました。

Q 6. その他の意見

- ・福祉以外の業種の方には難しい内容だと思う。
- ・今後は経営陣からの指示待ちであるため、そちらへの働きかけが必要だと感じた。

事前レポート・事後レポート

参考資料参照 「第1回モデル研修 高知県 事前レポート&最終レポート」



第2回モデル研修 高知県



第2回モデル研修 高知県



第2回モデル研修 高知県



第2回モデル研修 高知県

第2回モデル研修 高知県



第2回モデル研修 高知県



b. 静岡県 モデル研修「サンダーバード災害福祉広域支援研修Ⅰ」

日時 : 平成26年3月3日, 4日

場所 : 静岡県コンベンションアーツセンター／グランシップ
(静岡県静岡市)

現地調整協力

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダー
バード静岡支部
社会福祉法人湖成会 (静岡県富士宮市)

呼びかけ先

高齢者福祉団体

障がい者福祉団体
 児童福祉団体
 医療団体
 行政団体（県，市町村）
 社会福祉協議会 等

参加者：高齢者福祉団体
 障がい者福祉団体
 児童福祉団体
 医療団体
 福祉相談センター
 富士宮市
 静岡県

実施体制：野田 毅（社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／高齢者福祉
 東北地方太平洋沖地震被災地）
 中田 年哉（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／障がい者福
 祉東北地方太平洋沖地震被災地）
 安井 あゆみ（特定非営利活動法人地域交流センター客員研究員・
 認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワ
 ーク・サンダーバード企画室室長）

プログラム

【1日目】

時 間	内 容	達成目標
9:00	受付開始	
9:30 ～ 9:40 (10分)	趣旨説明 日程説明 等	
9:40 ～ 10:20 (40分)	【情報提供】 「各都道府県の災害対策について ～災害時要援護者支援の視点から～」 静岡県防災担当課	各都道府県の災害 対策（害時要援護 者支援対策を含 む）の実情を知る
10:20 ～ 11:20 (60分)	【講義1】 「災害の基礎と実際」	災害をイメージす る力を養う
11:20 ～ 12:30	【ワークショップ1】 「災害の基礎と実際」	

(70 分)		
12:30 ～ 13:15 (45 分)	昼食・休憩	
13:15 ～ 15:05 (110 分)	【講義 2】 「災害時要援護者支援の基礎と実際」	災害時要援護者支援の基礎知識と基本姿勢を習得する
15:05 ～ 15:15 (10 分)	休憩	
15:15 ～ 17:15 (120 分)	【ワークショップ 2】 「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～仮設住宅サポート拠点について 考える～」	仮設住宅サポート拠点の運営について考える 検討を通して、災害時要援護者支援の基礎知識と基本姿勢を習得する
17:15 ～ 17:30	1 日目総括 諸連絡 アンケート	

【2 日目】

時 間	内 容	
9:00	受付開始	
9:30 ～ 9:40 (10 分)	昨日の気づき 日程確認 等	
9:40 ～ 11:40 (120 分)	【ワークショップ 3】 「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～災害福祉広域支援について考える ～」	災害福祉広域支援について考える 検討を通して、災害時要援護者支援の基礎知識と基本姿勢を習得する
11:40 ～ 12:30	昼食・休憩	

(50 分)		
12:30 ～ 13:00 (30 分)	【ワークショップ 4】 災害体験ゲーム	ゲームを通じて、 災害体験する
13:00 ～ 15:50 (160 分 + 休憩 10 分)	【ワークショップ 5】 「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～事業継続計画（BCP）について 考える～」	事業継続計画（BCP）策定の基本 を学ぶ 検討を通して、災害時要援護者支援 の基礎知識と基本 姿勢を習得する
15:50 ～ 16:00 (10 分)	休憩	
16:00 ～ 16:30 (30 分)	最終レポート アンケート	
16:30 ～ 17:00 (30 分)	全体総括 諸連絡	

アンケート

調査項目

《1 日目》

Q 1. 1 日目の研修全体の感想（選択）

- 1) たいへん良かった 2) 良かった 3) やや期待はずれだった
4) 期待はずれだった

Q 2. 講義 1 「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Q 3. ワークショップ 1 「災害の基礎と実際」についての感想・意見

Q 4. 講義 2 「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

Q 5. ワークショップ 2 「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～仮設住宅 サポート拠点について考える～」についての感想・意見

Q 6. その他の意見

《2日目》

Q 1. 2日目の研修全体の感想（選択）

- 1) たいへん良かった 2) 良かった 3) やや期待はずれだった
4) 期待はずれだった

Q 2. ワークショップ3「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～災害福祉
広域支援について考える～」についての感想・意見

Q 3. ワークショップ4「災害体験ゲーム」についての感想・意見

Q 4. ワークショップ5「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～事業継続
計画（BCP）について考える～」についての感想・意見

Q 5. 本研修全体の、日程、時間配分、会場等についての意見

Q 6. その他の意見

調査票

参考資料参照 「サンダーバード災害福祉広域支援研修Ⅰ【静岡】ア
ンケート」調査票

調査結果

《1日目》

回答率 88.9% 回答 16／参加者数 18 名

Q 1. 2日間の研修全体の感想（選択）

回答	人数	割合
1) たいへん良かった	4 人	25.0%
2) 良かった	11 人	68.8%
3) 期待はずれだった	1 人	6.2%
4) どちらでもない	0 人	0%
未記入	0 人	0%
合計	16 人	—

Q 2. 講義1「災害の基礎と実際」についての感想・意見

- ・災害の定義、種類など具体的に考えた事がなかったため、講義を受けてイメージする事ができて良かった。
- ・研修の導入として、概要から入っていく事は良い。
- ・分かりやすいと思いました。

- ・実際の被災状況など画像を通してイメージすることができた。
- ・講師の経験も交えた講義だったので理解をし易かった。可能ならもう少しアイスブレイクを入れたり、先にDVD等を見せ、右脳から左脳に落とし込むシナリオ展開の方がより理解が深まると思う。
- ・大地震の発生確率が想像以上に高く、日本全域に災害が起きている事実を再確認した。施設に帰って防災訓練等、災害対策を見直さなければと感じた。
- ・人為災害の中に伝染病が入っているが、今のグローバル社会では、局所的な災害というだけでなく、広域災害につながる可能性もある。表現を検討してみると良い。
- ・「災害の定義」から説明をはじめてくれたので分かりやすかった。
- ・特段新たな発見があった訳ではないが、導入としては必要だと思う。
- ・興味深く受講できた。
- ・40年近く、「来る」と言われている東海大地震への思いは恐怖ではなく「絶対くるから、いつ来ても生きていられる準備をしなくちゃ」という思いである。「生きている」ための準備をするためにさまざまな想定をしたいと思う。
- ・自助の大切さを学べた。施設においても自助の力をつけたい。
- ・初めて介護災害という言葉聞いた。介護災害についてはまだ知らない人が多いので周知したい。
- ・自助、互助の力が大切なことを学んだ。
- ・日本で起こった様々な例を挙げた説明は分かりやすかった。東日本大震災の例をもっと聞きたかった。
- ・自然・人為・特殊災害など区別がある事を理解できた。

Q 3. ワークショップ1「災害の基礎と実際」についての感想・意見

- ・同じ職種でない方々と違う視点で意見を出し合えて参考になりました。
- ・生々しい事例に沿った内容だったので、リアリティがあり、緊張感を持ったグループワークが出来た。
- ・導入部分でイメージをつけるにはとても良いワークショップだった。
- ・イメージをすることができました。ポイントを絞り込むことは難しかった。

- ・日頃の訓練やマニュアルも大切だが、それに頼り過ぎず、想定外の状況にも対応できる力が必要だと感じた。
- ・KJ法は初めての人同士でも取り組みやすい。
- ・悲惨な状況の中、懸命な職員の行動に感動した。「その時とっさの判断」という言葉が印象深い。普段から「判断力」を養い、様々な状況をイメージしておく事が大切だと思った。
- ・自己紹介もなくグループワークを始めたが、研修を受け慣れている方多く、集中して進める事が出来た。
- ・「気付き」は大切なので、当施設でも今後、同様の研修を行いたいと思った。資料が欲しかった。
- ・色々な職種の方と意見が交換出来て良かった。
- ・福祉避難所としての機能を果たすはずの自分の施設でも、被災でその機能を果たせなくなり、利用者数十名の避難所を探す側になりうることに気づいた。
- ・事例がとても生々しくて衝撃的だった。避難訓練の大切さやとっさの判断が必要だと感じた。
- ・他の参加者の素直な意見が聞けて良かった。時間が少し短かった。

Q 4. 講義2「災害時要援護者支援の基礎と実際」についての感想・意見

- ・非常に分かりやすかった。日頃自分が疑問に思っていたことをピンポイントで指摘してくれた。これからの準備に非常に役立つ内容だった。もう一度資料を読み返して考えてみたい。
- ・仮設住宅サポート拠点の設置や福祉避難所の受け入れ体制等に、行政による対応に違いがある事は驚きだった。
- ・サポートセンターを運営するにはお金もかかるし、職員の負担も大きい。どれだけ使命感を持てるだろうか。
- ・内容は理解できましたが、とても長く感じた。途中で5分でも休憩を入れたり、双方向で行うと良いと思う。動く事が基本の仕事の人はつらいと思う。
- ・避難所の受け入れ体制や避難方法が整っていない現実を知った。避難生活がどれだけ不便かを学んだ。
- ・被災地にニーズにどれだけ添った支援が行えるかは、経験と発想といった個人の能力や想いによるところが大きいと感じた。ある程度の自由な発想を残しながら構造化できると良い。
- ・様々な状況でとっさに判断しなければならない事なので、実

例や想定できるパターン等の数を増やした方が、より説得力のある内容になると思う。

- ・内容は素晴らしいのですが、110 分連続で講義を行うのは長すぎと思った。
- ・事例に基づいた講義で良かった。
- ・職員の召集について「業務倫理」でまとめないで欲しいと思った。子育て世代の女性スタッフがたくさんいる。「家庭（主として子供）をおいて、職場へ」がしたくてもできないスタッフたちが苦しんでいる。倫理があるからこそ、出勤できないことを（他のスタッフから何も言われなくても）自ら責めている。職員の召集については、一概に言えない部分があると思う。
- ・社会的弱者とされる災害時要援護者ですが、超大規模災害を要因に今まで普通に生活していた人も、全ての人が、それになりうると思った。
- ・要援護者を支援するためには、普段から民生委員や自治会と情報の共有をし、福祉避難所の役割を伝えていく必要がある。
- ・当法人はグループホームも運営している。災害が発生したらすぐには事業再開できないと思った。BCPを作る必要を感じた。
- ・色々考えが頭に浮かんだ。
- ・支援の手がたくさん必要だとわかった。
- ・施設長や事務長や防災管理者が不在時にも災害が発生することはある。全職員に対して防災教育が必要だと感じた。

Q 5. ワークショップ 2 「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～仮設住宅サポート拠点について考える～」についての感想・意見

- ・社会福祉法人が中心となった地域コミュニティの必要性を強く感じた。
- ・これから進める上でイメージを膨らませるためのワーキングだと感じた。
- ・映像等で実際の様子を見てから行くと、もっとイメージが沸くと思う。発表後のコメントの実際の話が良かった。
- ・長期の避難生活というものを今まであまり考えていなかった。必要な機能の洗い出しと、その役割を誰が担うかというワークショップは役立つと思った。
- ・実際に住んでいる地域が被災した状況をイメージするのは難

しかった。災害が起こる前に、どれだけ連携が必要かを考える事ができた。

- ・設定が明確ではなかったので、どう展開すべきか戸惑ったが、理解事態は深まり、良いワークショップとなった。
- ・仮設住宅で生活するために何が必要か、どんなものがあると便利か快適かといったことについて考えさせられた。課題も多く、対策の大変さが分かった。
- ・女性がいなかったので、女性ならではの意見が足りなかった。
- ・支援対象者や地区の特徴等の設定が最初にあったほうがディスカッションは行いやすい。
- ・はじめは、論点が定まらなくて戸惑ったが、結構楽しめた。
- ・仮設住宅に入るということは、それまでのコミュニティが少なからず壊れるということだと実感した。大混乱の中、そこに居るしかないもの同志がマイナスから作っていく関係性の難しさを感じた。
- ・サポート拠点の大切さと運営の難しさを学ぶことができた。
- ・とても濃い内容で勉強になった。配分時間が少し短く感じた。
- ・災害前と災害後とのサポートの難しさ等、勉強になった。
- ・治安・トラブル対応が重要なことに気づけて良かった。

Q 6. その他の意見

- ・添付資料が参考になった。
- ・実際に支援をなさった際の課題やこぼれ話に興味を惹かれた。
- ・1 日で行う内容としては盛り沢山だったが、受講できるのはやはり 2 日間が限度だと思うので、仕方ないと思う。
- ・患者さんを支援するためにも、これからも勉強したい。
- ・ワークショップの設問に、抽象的な表現が多く、答えを導き出すのに苦労した。全体的にとっても勉強になった。
- ・県の方の話も有意義だった。東海地震が近いうちに起こると言われていた理由や第 4 次想定エリアなど具体的に説明を頂き、良く理解できた。資料が白黒なので細かい所が少し見えにくかった。

《2日目》

回答率 100% 回答 17 / 参加者数 17 名

Q 1. 2 日間の研修全体の感想（選択）

回答	人数	割合
1) たいへん良かった	7 人	41.2%
2) 良かった	9 人	52.9%
3) 期待はずれだった	0 人	0%
4) どちらでもない	0 人	0%
未記入	1 人	5.9%
合計	17 人	—

Q 2. ワークショップ 3 「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～災害福祉広域支援について考える～」についての感想・意見

- ・自然の中でどのように生き抜くかと思いながら勉強した。
- ・もう少し時間をかけてゆっくりやりたかった。
- ・受援の際、対策本部がどのように指示を出すべきか、ボランティアをどう受入れるかについては、市町村で話し合っていないかならない課題だと感じた。
- ・考えれば考えるほど課題が出てくる。いかに事前に想像して準備をし、行動に移せるかが課題だと思った。時間との戦いだと感じた。
- ・支援力、受援力、共に施設として検討したことがなかった。参考になった。
- ・グループの方々と意見交換することでイメージできた。
- ・被災地を支援するための準備を平時からしておくといった点が新鮮だった。
- ・どのような流れで支援に入るかを考える機会が今までなかった。良いトレーニングになった。
- ・「受ける」立場でのシミュレーションが必要であると感じた。
- ・支援に向かうことは何度か考えた事があったが、受ける上で必要な事を考えた事がなかった。良いきっかけになった。
- ・災害に備え、他の事業所と協定を結ぶ必要があると感じた。
- ・福祉避難所として機能するためには、地域との連携、周辺企業との協定、自治体との情報共有等が必要であると感じた。
- ・災害時においても生活は続いていく。それを支えるためには様々な支援が必要であると感じた。

- ・具体的に考える事が出来て良かった。
- ・支援より、受援の方がどのグループも意見が減っていたのが興味深かった。
- ・考えることはたくさんある。

Q 3. ワークショップ4「災害体験ゲーム」についての感想・意見

- ・最後に残るとしたら、決断力が求められるのかと思う。
- ・最後に何を残すか悩んだ。とても悲しい思いだった。大災害を経験された方はどんなにつらかったのかと考えさせられた。
- ・究極の選択を強いられた時の気持ちは、その時にならないと分からないと思う。あまり考えたくなかった。切なくなった。
- ・最後に残ったのは「身内」のカードが多かった。災害時に、如何に人間関係を守るかが重要だと思った。
- ・簡単なルールで理解し易いゲームだった。他のテーマでも応用できそうである。
- ・一番大切なものについて、考えさせられた。
- ・残り一つにするのは辛かった。被災された方々はさぞかし厳しかったと思う。
- ・何を優先するか考えた事が無かったので、改めて考える事が出来て良かった。
- ・リラックスしてのぞめた。まさか「命」について考えるとは思わなかった。初日に行っても良いと思う。
- ・ゲームだから決断する事が出来たが、実際の現場ではなかなか決断出来ないと思う。普段からシミュレーションすることは必要だと思った。
- ・大切なものを突然捨てなければならなくなることを学んだ。
- ・映像の結末を知りたかった。
- ・災害時は、助けたいけど助けられない、難しい判断を求められることがあるということがイメージできた。
- ・楽しみながら究極の選択を行うゲーム内容でしたので、気分が重くならずに来た。
- ・「大切にしているもの」が意外に出てこなくて愉快だった。

Q 4. ワークショップ5「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～事業継続計画（BCP）について考える～」についての感想・意見

- ・施設ごとにBCPは全く違うということが分かった。
- ・少し難しく、もう少し時間が欲しかった。
- ・社会福祉法人として地域と支え合う施設作りをしていきたい。

- ・ B C Pは理解が難しい。時間をかける必要性を感じた。
- ・ 同じ施設の職員同士ではないので、共通理解がなく、不安だったが、自分では発想できない意見を聞くことができ、参考になった。自分の施設で検討する時も、施設内だけではなく、地域の方と一緒にいけると良いと思った。
- ・ 様々な意見により自分の引き出しが増えて良かった。
- ・ 自分は行政であるが、事業所側からみた視点がとても参考になった。グループワークが中心でとても良かった。
- ・ 問題に抽象的な表現が多く、答えを出すのに苦労した。考える力が必要だと思った。
- ・ B C Pについて触れることはできたが、まだ理解度は低い。B C Pの解説をもう少し詳しくしてほしい。サンプルの説明や共通の設定による演習等があると良い。
- ・ B C Pは今後施設内研修でも取り組んでいきたいと思います。
- ・ B C Pという言葉は知っていたが、実際にB C Pを作るのは難しかった。もう少し時間を多くしてほしい。
- ・ 難しかった。
- ・ 福祉施設従事者ではないため、細かい部分については想像できず、苦労した。地域との連携やその地域にあった計画を組み立てる必要性を感じた。
- ・ 特殊な状況の中での基本姿勢をどこまで設定するか考えさせられた。基本姿勢を共有することが大切だと感じた。
- ・ B C P策定の第一歩を勉強し、課題が浮き彫りになりました。また策定の難しさを体感した。
- ・ 自由に意見を出し合えたので、面白かった。自分の職場で上司や同僚と考える時は、上手く出来るかやや心配である。
- ・ 行動に移せるのかと不安になった。
- ・ 地域がばらばらだったので、意識・情報を合わせるのが大変だった。

Q 5. 研修全体の、日程、時間配分、会場等についての意見

- ・ 各グループに支援員・管理職・事務員等が混じっているとより色々な視点で議論ができると思う。
- ・ ひたすらワークショップで大変だと思ったが、過ぎてみればあっという間で、満足できる内容だった。
- ・ グループで話すことで、自施設・法人の体制を再検討できた。
- ・ ワークショップの模造紙の写真を撮れる時間や機会があると

(グループごとに後ろに置いてあり、必要ならば自由に写真を撮れる様にするなど) 良いと思った。職場へ研修報告が必要であり、振り返りにも使用できる。ワークショップの問題もプリントして欲しかった。

- ・ワークショップを行う時は、グループ内で自己紹介を行うと良い。
- ・90分に1回休憩がないと思考が鈍る。
- ・多くの参加者の意見を聞くことが出来、大変勉強になった。こういう機会をもっと多くの人が持てると良い。
- ・レポートは必要なのか、疑問である。
- ・3回シリーズで講義等に時間をもう少しかけてほしい。
- ・3月は忙しいので避けた方が良い。
- ・タイトな日程だったが、勉強になった。
- ・日程・会場について特に問題ないと思う。時間配分については、合計で15時間の研修を2日間で行うのは、会場まで片道2時間以上かかる自分には体力的にも厳しかった。静岡県で行う場合、2日間なら浜松、静岡、沼津の3か所に分けると良いと思う。
- ・休憩時間がもっとあれば良かった。職場との連絡が全く取れなかった。

Q 6. その他の意見

- ・考えた事もなかったことを知る事ができた。意見の交流が出来て良かった。
- ・とても良い研修だった。これから準備していく、基礎を作ってもらえた。
- ・貴重な研修に参加できて、本当に良かった。次回があったら参加したい。
- ・皆さんの意見を聞いて、自施設での課題が明らかになった。
- ・2日目は幅広い内容を学んで充実していた。反面、消化不良な点も少しあった。
- ・答えが一つではなく、様々なパターンや奥深さがあるので講師はたいへんだと思う。
- ・ネットワークが大切なことを学んだ。参加者名簿があると今後につながるの良いと思った。
- ・グループワークの項目を細かくし、時間も細かく割り振りをすると、ポイントを絞って出来たと思う。

- ・出題のしかたを、答えを導き出しやすい形にしてほしい。
- ・福祉職と医療職で合同の勉強会があると良い。

事前レポート・事後レポート

参考資料参照 「第1回モデル研修 静岡県 事前レポート&最終レポート」

第3回モデル研修 静岡県



第3回モデル研修 静岡県



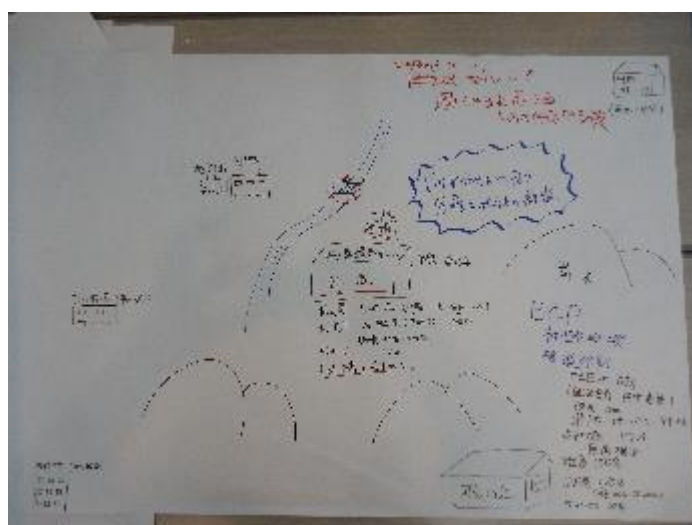
第3回モデル研修 静岡県



第3回モデル研修 静岡県



第3回モデル研修 静岡県





第3回モデル研修 静岡県

(5) 研修プログラム VER. 3 の作成

モデル研修（第2回モデル研修，第3回モデル研修）での研修プログラム VER. 2 の検証結果に基づき、研修プログラム VER. 3 を作成した。検討は、各モデル研修後の意見交換とネット上でのやりとりで行った。

研修プログラム VER. 3 の検討は、第2回検討委員会で行った。

最終のテキストは、次項のまとめに掲載する。

5. 3. 報告書の作成と普及

本事業の成果であるテキスト「サンダーバード災害福祉広域支援研修Ⅰ」を、全国の都道府県(47 都道府県)に研修案内として送付した。

目的

本事業の成果を広く知らせ、災害福祉広域支援ネットワークのプラットフォームづくりの推進と次年度以降の研修実施に繋げるため、本事業の成果物であるテキスト「サンダーバード災害福祉広域支援研修Ⅰ」を、プラットフォームづくりの主体の一つとなる、都道府県の防災担当課に送付した。

読み物ではなく、研修を前提としたテキストではあるが、テキストそのものが啓蒙につながると考えている。

時期

平成 26 年 1 月～3 月

- | | |
|--------------|-----------------|
| (1) 発送リストの作成 | 平成 25 年 1 月～3 月 |
| (2) 研修案内の発送 | 平成 25 年 3 月 |

実施手順

(1) 発送リストの作成

H P 等を参照し、都道府県の住所録を作成した。

(2) 研修案内の発送

発送リストに従い、各都道府県にテキスト 10 冊を発送した。

対象

47 件 全国の都道府県防災担当課

6. まとめ ～課題と展望～

福祉における災害時の広域支援システムの遅れが指摘され、厚生労働省の働きかけにより、福祉における災害時の広域支援体制「災害福祉広域支援ネットワーク」の構築が始まりつつある。各県毎に、災害時要援護者支援に関わる団体の連携プラットフォームづくりが推奨され、現在、以下の16都道府県で、具体的な調整が行われている。

北海道	(行政)
青森県	(県社会福祉協議会)
岩手県	(行政＋県社会福祉協議会)
宮城県	(社会福祉法人東北福祉会＋県社会福祉協議会)
秋田県	(県社会福祉協議会)
山形県	(県老人福祉施設協議会)
群馬県	(県社会福祉協議会)
東京都	(都社会福祉協議会)
新潟県	(県社会福祉協議会)
富山県	(県社会福祉協議会)
石川県	(県社会福祉協議会)
愛知県	(県社会福祉協議会)
三重県	(県社会福祉協議会)
京都府	(府社会福祉協議会)
島根県	(県社会福祉協議会)
熊本県	(行政)

※ カッコ内は、現在の調整担当

本事業では、「災害福祉広域支援ネットワーク」が、有事に確実に機能する広域システムとなるよう、ネットワークを構成する各都道府県の連携プラットフォームの共通認識づくりを目的とした研修プログラムの開発を行った。

基礎編から応用編まで、各論から総論までの、段階的なプログラム構成と、その最も基礎にあたる「災害福祉広域支援研修Ⅰ」の開発が具体的な成果である。「災害福祉広域支援研修Ⅰ」は、災害をイメージする力と、明日災害が起こった場合にも役立つ基礎理念の習得を達成目標とし、災害福祉広域支援ネットワークを機能するしくみとするために、最低限必要な内容とした。

アンケートの回答や事前レポートと終了レポートの変化をみると、第一段階としての目的は達成されたと考える。

東日本大震災では、障がい分野の被害が著しかったことを踏まえ、本研修は、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉等の種別を超えたしくみづくりを前提に実施した。また、重複のない、効率的な支援のために、介護、看護等の職種を超えた連携を前提とした。

研修プログラムの検証のために実施したモデル研修には、障がい者福祉や児童福祉の関係者の参加も得られ、ある程度の検証は行えたと考えている。とはいえ、現状は、高齢者福祉の関係者に偏りがあったことも事実である。継続的な検証が必要である。

本事業の成果と今後の課題を以下に整理する。

(1) 「災害福祉広域支援研修Ⅰ」の見直し

第2回検討委員会で、「災害福祉広域支援研修Ⅰ」についての評価を行い、以下の事項について今後、検討することを確認した。

●「サンダーバード災害福祉広域支援研修Ⅰ【基礎編】」について

- ・研修スケジュールについては、主催者の要望に柔軟に対応することとする。
プログラム内容及び時間は変更しないが、開始を午後からとし、宿泊を前提として夜間の時間を使うといった対応も考えられる。
- ・休憩は、講義やワークショップの途中にも、必要に応じて講師の判断で入れることとする。
- ・グループ分けの方法は、主催者と調整して、より効果的な形で実施する。1日目と2日目のグループを変更することも検討する。
- ・被災後の順番に合わせて、ワークショップ2「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～仮設住宅サポート拠点について考える～」とワークショップ3「災害時要援護者支援の基礎と実際 ～災害福祉広域支援について考える～」を入れ替える。
- ・次のテキスト改版にあわせて、「チームケア」についての項目を追加する。
- ・復興期の支援が、自立支援であるべき点について、更に強調していく。(口頭で対応)
- ・ワークショップ前には、講義の復習を行う。
- ・本研修は基礎編であり、広く浅く知識を得ること、災害をイメージする力を養うこと、判断の基礎になる概念を学ぶことを重視したものであることを、繰り返し伝えていく。
- ・今後の実施のための予算や体制についても、検討していく。
- ・継続的な実施のために、映像の使用許可を得る。

●テキストについて

- ・「【参考資料】災害福祉広域支援事業（国の動き）」の情報は、変動することが考えられるものではあるが、日付を入れた上で掲載する。改版時には、再度検討する。
- ・プログラムには時刻を記載しない。所要時間のみを記載する。

今後も研修実施の度に反省会を行う等して、継続的に、研修内容や手法等を見直し、質の向上を図っていく。

（２）講師の育成プログラムの開発

「災害福祉広域支援研修Ⅰ」は、今後、全国の連携プラットフォームを対象に実施することになる。研修の効果に配慮して、定員を 42 名程度としていることから、一つの都道府県で複数回の実施が必要になる。

本事業のモデル研修は、開発会議のメンバー 4 名で実施した。講師育成が、早急の課題である。

認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードでは、次年度事業として、「災害福祉広域支援研修Ⅰ」の講師育成プログラムの開発を企画している。現段階の企画(案)は、以下の通り。

●講師育成プログラムの開発

本事業で講師を務めた、以下の 4 名を中心に、育成プログラムの開発を行う。プログラムは、集合研修（座学）と個別研修（実習）の両方を含むものとする。

小山 剛 （高齢者総合ケアセンターこぶし園園長／
高齢者福祉／新潟県中越地震被災地）

野田 毅 （社会福祉法人東北福祉会法人本部次長／
高齢者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地）

中田 年哉（社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会／
障がい者福祉／東北地方太平洋沖地震被災地）

安井あゆみ（認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード）

●講師育成プログラムの実施①集合研修

開発した育成プログラムのうち、集合研修（座学）を東京都（案）で実施する。

●講師育成プログラムの実施②実習

開発した育成プログラムのうち、個別研修（実習）を災害時要援護者支援の連携プラットフォームづくりが始まっている都道府県等（次項参照）で実施する。

研修の成果は「災害福祉広域支援研修Ⅰ基礎編」のブラッシュアップに活用

する。

（３）「災害福祉広域支援研修Ⅰ」フォローアップ研修の開発

災害は、日常生活の中で、忘れられがちになる。災害の備蓄も、準備したことに安心し、使用期限の過ぎたままになっている例も多い。災害福祉広域支援ネットワークが有事に確実に機能する広域システムとなるためには、研修修了者であっても、定期的な確認と意識づくりが必要である。

以上のことから、「災害福祉広域支援研修Ⅰ」のフォローアップ研修の開発も、今後の重要な課題の一つと言える。

（４）応用編の研修開発

本事業で検討した、基礎編から応用編まで、各論から総論までの、段階的なプログラム構成にそって、継続的な研修開発を行うことも、今後の課題である。

「災害福祉広域支援研修Ⅰ」は、災害をイメージする力と、明日災害が起こった場合にも役立つ基礎理念の習得を達成目標とし、災害福祉広域支援ネットワークを機能するしくみとするために、最低限必要な内容とした。災害時要援護者支援に関わる内容を広く浅く学ぶ研修であった。

アンケートの中には、多岐に渡る内容の中で、深めたい内容も挙げられている。それらの要望に応えるための応用編の研修開発を行っていきたい。

本事業で作成した、研修構成は以下の通り。

No.	研修名	概要
1	災害福祉広域支援研修Ⅰ 【基礎編】	・最初に受講する基礎講座 ・災害時要援護者支援の全般について学び、最低限の知識の習得と災害時要援護者支援に関わる上での基本姿勢を育む。 ・2日間コース
2	災害福祉広域支援研修Ⅰ 【フォローアップ編】	・定期的（年1回程度）にフォローアップ研修の受講を推奨する ・半日～1日間コースとする。 ・次年度以降、プログラムを作成する。
3	災害福祉広域支援研修 【応用編Ⅰ 訓練計画手法】	・基礎編の内容を深め、実務に繋げるための講座 ・必要に応じて講座数を増やしていく。
4	災害福祉広域支援研修 【応用編Ⅱ 福祉避難所運営】	・次年度以降、プログラムを作成する。

	手法】	
5	災害福祉広域支援研修 【応用編Ⅲ サポートセンター運営手法】	
6	災害福祉広域支援研修 【応用編Ⅳ B C P 策定手法】	
7	災害福祉広域支援研修 【応用編Ⅴ 地域連携手法】	
8	災害福祉広域支援研修 【応用編Ⅵ 地域包括ケアのまちづくり】	
9	講師養成講座	・上記の研修ごとに講師養成講座を設ける。 ・次年度以降、プログラムを作成する。
10	地域住民向け災害時要援護者研修	・地域住民を対象とした研修を実施する。 ・災害時要援護者支援に不可欠な住民との連携体制づくりを目的とする。
11	職種別・サービス別 災害時要援護者研修	・職種別の研修を実施する。

(5) 「災害福祉広域支援ネットワーク 連携プラットフォーム会議」の提案と調整

災害福祉広域支援ネットワークを有事に効果的に機能するものとするためには、研修等による共通認識づくりと共に、信頼関係づくりが不可欠である。

先述したように、東日本大震災では、福祉における広域支援が十分な成果を挙げるに至らなかった。厚生労働省による広域支援の呼びかけがなされたが、呼びかけに応じた7,719人の内、実際に支援を行ったのは、1,424人（岩手県302人、宮城県966人、福島県156人/2011年7月19日時点）であった。

この原因の一つに、受援力の弱さが挙げられる。受援力とは、支援を受ける側の力である。これまでは、受援力について具体的に検討がなされることが少なかった。「災害福祉広域支援研修Ⅰ」での「受援力」についてのワークショップは、「初めて考えた」という反応が最も多かったプログラムである。

受援力を高めるために欠かせないものの一つが、顔の見える関係づくりである。東日本大震災においても、事前に信頼関係が結ばれていた団体間では支援が動いている。

「災害福祉広域支援ネットワーク」を有事に効果的に機能させるためには、顔の見える関係づくりは不可欠である。そこで、認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードでは、次年度事業として、災害福祉広域支援ネットワークの連携プラットフォームが一堂に会した会議を企画したいと考えている。

(6)「災害福祉広域支援ネットワーク 首長会議」の提案と調整

東南海地震、首都圏直下地震等の大災害の予測がなされ、いつ、どこで災害が起きるか分からない状況において、福祉における災害時の広域支援のしくみをつくることは早急の課題である。しかし、厚生労働省の提案から数年が経過しているが、災害福祉広域支援ネットワークのプラットフォームづくりは、16 都道府県で検討が始められた段階である。

災害福祉広域支援ネットワークの連携プラットフォームづくりの動きを、加速し、全国に広げるためには、リーダーとなる市町村長の決断が不可欠である。

そこで、認定特定非営利活動法人災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバードでは、次年度事業として、「災害福祉広域支援ネットワーク 首長会議」を企画することで、福祉における災害時広域支援のしくみづくりを加速したいと考えている。